

令和5年第14回教育委員会議事録

令和5年8月9日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会議事録

日 時 令和5年8月9日（水）午後2時00分～午後4時59分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 白石 高士 委員 對馬 初音

委員 久保田 福美 委員 伊井 希志子

委員 折井 麻美子

出席説明員 事務局次長 岡本 勝実 教育政策担当部長 佐藤 正明
学校整備担当部長 教育人事企画課長

庶務課長 渡邊 秀則 特別支援教育課長 正富 富士夫
学校ICT担当課長 支援センター所長

済美教育センター 古林 香苗 済美教育センター 加藤 則之
所 長 統括指導主事

事務局職員 庶務係長 佐藤 守 担当書記 松尾 菜美子

傍聴者 20名

会議に付した事件

(議案)

議案第73号 杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和6年～9年度使用）の採択について

議案第74号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和6年度使用）の採択について

目次

議案

- 議案第73 杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和6年～9年度使用）の採択について・・・・・・・・・・ 4
- 議案第74 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和6年度使用）の採択について・・・・・・・・・・ 55

教育長 それでは、ただいまから令和5年第14回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。本日の会議について、事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 本日の議事録の署名委員につきましては、教育長より事前に對馬委員との指名がございました。よろしくお願ひいたします。

続きまして、本日の議事日程についてでございますが、事前にご案内のとおり、教科書採択に関する議案2件を予定しております。以上でございます。

教育長 それでは、本日の議事に入ります。本日は、教科書の採択を予定しておりますので、委員の皆様のご意見を伺いながら、最終的に委員会としての結論を出していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、議案の上程・説明は事務局よりお願ひいたします。

庶務課長 それでは、日程第1、議案第73号「杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和6年度～9年度使用）の採択について」を上程いたします。済美教育センター所長からご説明を申し上げます。

済美教育センター所長 私から議案第73号「杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和6年度～9年度使用）の採択について」ご説明いたします。

今年度採択を行う教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律等に基づき、令和6年度から令和9年度までの4年間使用するものとなります。文部科学省の検定に合格した11教科、13種目、54種類、259点の教科用図書からご審議いただくこととなります。

次に、調査事務についてご報告いたします。教科用図書の調査研究については、教育委員会が任命した委員による教科書調査委員会を設置し、規則・要綱・手引に基づいて、全ての教科用図書について専門的な見地から調査研究を行いました。その際、種目別の調査を各種目別調査委員会へ、学校別の調査を各小学校へ依頼し、その報告書を基に2回の協議を行ってまいりました。その協議に当たっては、教科書展示会で区民の皆様から頂いた区民アンケート181通を参考にしております。

また、2回目の調査委員会におきましては、保護者の方にもご参加いただき、ご意見を頂いたところです。調査研究結果につきましては、7月26日に教科書調査委員から教育委員の皆様へ調査報告書とともに口

頭でもご報告させていただきました。

提案理由ですが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、区立小学校で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。

議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それでは、これより審議をお願いいたしますが、審議に当たりましては、教科書の発行者名を明らかにしてご発言いただきますよう、お願いを申し上げます。

それでは、最初に国語についてお願いいたします。

教育長 それでは、今、国語からというお話があったのですが、まず全体に関わる部分につきまして、私の方から幾つか今回の教科書採択に当たって触れておきたいなと思っています。

まず、今回の教科書採択は、基となる学習指導要領は4年前に採択した学習指導要領と変更はございません。主体的・対話的な深い学びを推進していく。つまり、何を学ぶかだけでなく、どのように学んでいくかということを重視した学習指導要領であります。

これは子どもたちに、しっかり物事を考え、そして表現していく、そうした力をしっかり身につけさせていく。知識とか技術・技能を定着させるだけでなく、しっかり物事を考える、そういった子どもたちを育てていきたいという趣旨の学習指導要領に基づいて、今回も前回に引き続き採択を行うものであります。

しかしながら、この4年間というのは非常に、コロナをはじめ、世の中が大きく変化した時期でありました。今回の採択においても、タブレットの活用等、多くのことが、4年前にはなかったものが付け加えられています。我々は、大きく変わった4年間の流れの部分も含め、しっかり教科書を見ていきたいと思っています。これが1つ目です。

2つ目ですが、この4年間の間に我々杉並区教育委員会が定めた「教育ビジョン2022」が実施されています。みんなのしあわせを創る杉並の教育を大切に考える考え方として、「子どもの思いを尊重する」、「ちがいを受け入れる」など、5つの視点を盛り込んだ教育ビジョンが実施されています。この新しい教育ビジョンに基づいて教科書採択をするのは初めてでございますので、この教育ビジョンも含めて採択を行っていききたいと思っております。これが2つ目です。

3つ目ですが、保護者の区民アンケートの中にもあったのですが、教科書が大きくて重いとか、見やすくすると大きくなってしまいうのですが、何とかならないのかという保護者の声が複数寄せられています。我々の下にも特に1年生の持ち物の重さ、1年生だけではないですけど、そういったことについてご意見を頂いています。

子どもの持ち物をできるだけ軽量化していくというのは、今いろいろ我々も工夫しているところですが、一番大きなものは、やはり教科書にあります。できるだけ子どもの負担を軽くするためには、じゃあ、教科書は軽いもの、小さいものの方がいいのかとなってしまうと、これは本末転倒、中身を選ばないことになってしまいます。もちろん、教科書の大きさ・重さというのは配慮をしてみたいと思いますが、我々はその大きさだけでなく、しっかり中身を見て検討してみたいと思います。これが3つ目です。

それから4つ目、デジタルコンテンツについてです。4年前の採択と指導要領は変わらないとはいえ、今回はデジタルコンテンツ、全ての会社の教科書に二次元コードが記載され、それを読み取ることによって補助的な資料が見られるような工夫に、各社ともなっているなど思っています。今回は調査観点に、学校調査、種目別調査を加えておりますので、デジタルコンテンツの中身、それから、その内容、全てですね、いろいろ含めて検討してみたいと思います。これが4点目。

次、最後です。マスコミ報道によって、一部の教科書会社による、いろいろなコンプライアンス的な問題が報道されています。展示会での区民のアンケートの中にも、そうした発行者のものは使わないでほしいというアンケートも複数実はありました。

私たちがいろいろ検討はいたしました。しかしながら、やはりこれも先ほどの教科書の大きさと同じですけど、教科書会社の報道の内容も、もちろんよくないこととは思っておりますが、しっかり教科書の中身を見て、内容を見て採択に当たりたいと。ですから、そういった発行者は使わないというご意見をそのまま使うのではなく、しっかり中身を見て、教科書の内容で検討していきたいと考えております。

以上、5つについて、全体に関わることですので、ここで確認をしたところでは、

それでは、国語の採択に移りたいと思います。国語について、それぞ

れの教育委員の皆様方からご意見がありましたら、お願いをいたします。

對馬委員 では国語について、まず私の方からお話をさせていただきます。国語は3社ございまして、光村図書・東京書籍・教育出版の3社で、現在は光村図書の教科書を使っております。

先ほど、教育長がおっしゃったように、指導要領が変わらなかった。けれども、この間コロナなどがあって、デジタルコンテンツに関しては非常に、今使っているものよりも、どの会社も豊富になっているなと思いました。例えば東京書籍さんのデジタルコンテンツもとてもよかったですし、図書資料で紹介されている本も非常によかったです。教育出版さんも大変、関連図書によって関心を広げることができるなと思いました。

指導要領が変わらない中で、光村図書の教科書がかなり私は変わったかなというか、今日的課題について新しい教材を多く取り入れたなという印象を持ちました。非常に子どもたちがイメージしやすい場面設定の新しい教材が多くなっていました。

例えば2年生の「鬼ごっこ」という簡単な説明文があったのですがけれども、それがロボットになっていました。お掃除ロボットとか、荷物を運ぶロボットとか、水族館だったかな、を案内するロボットだとか、小学校2年生でも分かりやすい、身近に活躍するロボットを紹介して、考えていくという文章になっていたり、4年生の「ウナギのなぞを追って」というところが「風船でうちゅうへ」と、ちょっと夢のあるような説明文に変わっておりまして、書いた方も、宇宙に行きたい、なかなか行けないかもしれないけど、風船を飛ばすことで宇宙から見た地球の写真が撮れるかもしれないというような文章でした。

あと私が一番、これはいいかなと思ったのは、5年生に「子ども未来科で何をする」という教材が入っていました。ここは今は「提案しよう、言葉と私たち」というのが入っていて、毎日の生活の中で言葉の使い方について、課題だと思うことについて出し合って、話し合おうということだったのですが、「子ども未来科」という、科は科目の科ですね。もしそういう授業があったら、よりよい未来のために自分たちは何を学びたいか。今の課題はこういうことで、それについて、こういうことを学びたいということをここで考えようとなっている、これは非常にいいなと思いました。

杉並の子どもたちが持続可能な社会に向けて、この先学んでいくのにとってもいい教材だなと思いました。ほかにもいいところがたくさんあったので、光村図書の教科書を今も使っていますが、私はそのまま継続して使うのはいかがかなと思いますが、どうでしょうか。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。どうぞ、折井委員。

折井委員 先ほど教育長から主体的・対話的な学びを実現するための教科書というお話がありまして、そのためには論理的な思考能力だとか、それを発信する能力を身につけることが非常に大切になってくるわけですけれども、この論理的な思考能力は、いろいろな教科で学んでいくにしろ、やはり言語教育の科目である国語が出発点なのかなと思いました。

私は、この点について、いろいろ見てきたのですけれども、前回の教科書よりも他者の気持ちを読み取ったり、意図をくみ取ったり、意見をまとめて発表したり、対話をするという活動が大きく扱われているという印象がありました。

ただ、トピックは、それぞれ教科書、少しずつ好みがあるようで、例えば東京書籍は、ロボットとの未来だとか科学技術系のもの、SDGsなど、少し社会問題よりの発表、対話活動が多いのかなという印象がございました。

教育出版は、例えば6年生の生活をよくする提案だとか、パネルディスカッションでの地域の防災など、生活者の視点をすごく大切にしているのかなと思いました。どのトピックも発表活動や対話活動に、すごくいいテーマだなと思いました。

光村図書は、もちろんそういった社会問題を扱っているところもあるのですけれども、他社に比べて、高学年であったとしても、自分だとか、お友達に焦点を当てて、身近なテーマについて話をする、考えて取り組むような学習が多い印象がありました。

どちらがいいのかなと考えた時に、先ほど申し上げましたように、こういった発表活動とか対話活動の出発点という科目の性質を考えると、社会問題だと、やはりどういうデータを出すのか、どういう説明をするのか、少し難しくなるのかなと思いましたので、テーマの重さだとか難しさに引きずられずに、しっかりとディベートだとかディスカッショ

ンのやり方を学んだり、もしくは発話の仕方、もしくは発言の経験を積むことができるので、私は光村図書が高学年であっても結構身近な話題というところにすごく好感を持ちました。

伊井委員 今、お2人の委員からそれぞれご意見がございましたが、私も3社を見てみて、いろいろこれまで扱われていたものが根強く残っているものもあって、その作品、作品の価値は大変あるのだなということ認識した次第です。

例えば東京書籍さんの「インターネットの投稿を読み比べよう」とか「プレゼンテーションしよう」などは、とても有意義な取組だと思ひまして、子どもたちのアクティブラーニングと呼ばれる活動には大変生きてくるのかなと考えました。

また低学年では、作文や日記の例が複数載っていて分かりやすく、また二次元コードで動画での討議の様子を紹介しているものがありました。「話し合って考えを深めよう」というところですがけれども、ああいった、本当にまさに話をしている状況を目で見られる、聞くことができるというのが、子どもたちが自ら学ぶという点でも大変いいなと思ひました。

あと、光村図書さんですが、取り上げている作品が1年生からとても厳選されているのはいいなと思ひました。変わらず懐かしい名作も取り扱われていますし、1・2年生の上巻の巻頭に、国語の学びを見渡そうとのことで、学年に沿った目当ての言葉が書いてあり、とても好ましく、分かりやすいと思ひます。

また、2年生のものには1年生の振り返り、3年生のものには2年生の振り返りと、学んだことも記載してあり、振り返りになると思ひますし、巻末にある「大切」のまとめが、その学年ごとの、まさに大切な項目が整理されていて、これもまた振り返りになっていると思ひました。

それから、話す・聞く・書く・読むが項目ごとに色分けされているので分かりやすく、今、何の活動を目指しているのかが低学年から理解しやすいのではないかなと思ひます。6年生の「デジタル機器と私たち」、「書く」の領域ですけれども、グループでの話合いの取組があり、対話的な学びにつながるのではと思ひました。そのほか「伝え合うための言葉」、「言葉の宝箱」、「図を使って考えよう」、「分ける・比べる・広げる」ということは、整理した物事を考える上で、ほかの教科にもとても生きると考えました。

それから、これは好みになってしまうかもしれませんが、日本では暦の上で季節を24に区切っていて、二十四節気と言われますが、その言葉が6年生に写真と解説つきで紹介されていて、本当に写真を含め、すてきだなと思います。

取り上げられている作品が児童の学びに適していて、3年の下の「メロディー」とか、それから、6年生「ぼくのブック・ウーマン」などは、読ませていただいても、大人も胸を打たれるものがあるなど感じました。

ほかにも「本は友達」などは、ブックトークをするページがあったり、学習用語や思考ツールがまとめて載っているため、児童が必要に応じて活用できるなど、大変整理され、また厳選された取組がされているので、私は光村図書を引き続き使わせていただくのがいいかなと感じました。以上でございます。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。久保田委員。

久保田委員 光村図書・東京書籍・教育出版、各社、それぞれ新しい教材、お話を入れているなというのが印象的でした。初めに對馬委員もおっしゃっていたのですが、今日的な課題を入れていくということの中で、それが例えばインターネットであったり、SDGsであったり、あるいは、エネルギー・環境問題であったり、新しいお話を新たに教材化していく、入れていくということは今回特徴的だったと思います。

その中で、やはり光村の場合には、その中でも児童が主体的に見通しを持って学習していけるような構成になっているなど私は考えました。やはり、このことは毎日学校現場で展開されている国語の授業の中で大事なことであるかなと思います。

また、1年生から6年生までの光村の教科書を見た時に、私がいいなと思ったところがあります。それは、各学年にわたって「図書館の使い方」とか、あるいは「学年の本棚」という、そういったページがきちっと設けられており、その中で、要は、子どもたちを本の世界へいざなう工夫がなされているなど思いました。1年生から6年生まで縦の系列で本の世界を広げていこうという意図がよく伝わってきていたなど思います。

ということで、私は、やはり今回光村を推したいなと思っています。以上です。

教育長 ほか、いかがですか。皆様のご意見を伺っていると、光村図

書出版というご意見が多くあったのではないかと思うのですが、国語につきましては光村図書出版と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、国語につきましては光村図書出版と決定いたします。

引き続き、書写に移ります。書写について、ご意見のある方は、お願いいたします。對馬委員。

對馬委員 書写も同じく3社、東京書籍・教育出版・光村図書の3社なのですが、先生方からの教科書調査委員会の報告書にも、書写については国語と同じ会社の方が指導がしやすいと、出てくる文字、平仮名だったり、漢字だったり、習う順番がそろっているほうが使いやすいという声が多くございましたので、先ほど国語は光村図書に決まったということなので、書写もそろえて光村図書でいかがかなと思います。

教育長 ほか、いかがでしょうか。

折井委員 私も賛成いたします。

久保田委員 私も對馬委員と同じ意見なのですが、今回も改めて3社の教科書を見て、筆使いとか、あるいは左利きの児童へ対応した工夫とか、お手本等も含めて本当によくできているなど思ったわけです。

そんな中で、先ほど国語の教科書は光村ということで決まりましたが、国語の教科書と対応させるべきか、あるいは、そうしなくてもよいのかということ考えた時、それはどちらでもよいのかなと、前回も出たと思いますが、今回もそうだと思います。

そんな中で、よく見ていくと、例えば1・2年生の硬筆のところの内容を見ていくと、国語の教科書に関連したものが入ってくるケースがままあります。今回でいうと「スイミー」が典型ですね。「スイミー」について言うと、国語の教科書では1年生に入っているのが2社です。2年生が1社だけです。それが光村です。今回の硬筆の方を見ても、当然2年生に「スイミー」が入っているのは光村だけなのです。そういう意味では、「スイミー」対応でいえば同じ2年・2年につながるなということも感じました。

それから、光村の教科書でもう一ついいなと思ったところがありました。それは、3年生以上の毛筆のところなのですが、3年生以上は毛筆なのですが、毛筆が全てということでは全然なくて、硬筆の扱いも入ってきているということがよく分かります。その中で、例えば「手紙の書

き方」とか「はがきの書き方」とか「プログラムの書き方」とか、まさに日常生活に生かしていくものがはっきりと位置づけられて、押さえられているのですね。

これはとても大事なところだなと思ひまして、やはり光村の教科書でいいのではないかと思った次第です。

伊井委員 私は、もう少し細かい観点で拝見させていただいたのですけれども、今、久保田委員がおっしゃったのですが、左で書くお子さんのために3社とも大変対応があつていいなと思ひました。世間的にも左効きの方が増えたかなというイメージがありますし、そこはすごく大事な観点かなと思ひております。

それから、光村図書さんですけれども、1年生の夏休みに入る時期に合わせて、「絵日記の書き方」、タイムリーに横書きと数字も学べる構成になっています。それから、1、2年生の中で「こんなことないかな」という提案がされていて、間違えてしまつているところとか、書き方ができているかなということが確認できたり、3年の終わりの方にも「できているかな」として、鉛筆の持ち方のおさらいが載つていて、基本の持ち方を改めて確認できて、復習できるなと思ひました。

3年生の巻末のところに、通常だと、いわゆる毛筆のあいうえお順の表記だけが載つているのですが、光村では3年の巻末に硬筆と毛筆の平仮名と片仮名の一覧表もあり、これもとてもいいなと思ひました。

東京書籍さんは、1年生から6年生全ての巻末に、1年生から〇〇年生で学習することとして「まとめ」が書いてあるので、これも復習に対して整理ができるので、書写の教科書としては見やすい観点でもあるのかなと思ひます。

また、これは光村さんですけれども、片仮名のソとン、それからツとシ、とても小学生にとって間違えやすいところだと思うのですが、漢数字の三と片仮名のミ、漢数字の八と片仮名のハなどについても丁寧に学びを進める構成になっています。

それから2年生では「連絡帳の書き方」、それから4年生では「防災」、「未来をつくるアイデア」、「書写のごみゼロ」、「3R」にも触れていて他教科への広がりがあるなと感じております。そういう意味では、キャリアデザインという点でも優れているなと思ひます。

それから、ポスターとか、いろいろな形の表す、表現するということ

についても触れてあって、ポスターだけではなくて「なくそう食品ロス」など、そういったチラシなどのような形もトライアルとしてありました。

ネコのイラストを使って折れとかにも触れて、子どもたちに分かりやすくしています。そのほかに「平仮名集まれ」「片仮名集まれ」、「漢字調べたい」など、題目で子どもたちの気持ちを引くのが上手だなと思いました。

デジタルコンテンツについてですけれども、東京書籍も大変充実していると思いますが、自習のことを思うと、例えばお習字を自分でやろうかなと思った時に、真上からの映像もあり、光村さんのものは見やすいなと思いますので、皆様のご意見に賛成でございまして、光村図書の書写がいいかなと思いました。以上です。

教育長 ありがとうございます。皆様、光村図書出版ということでお話しいただきましたので、書写につきましては光村図書出版と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、書写につきましては光村図書出版と決定をいたします。

続けて、社会科に移ります。社会科についてご意見のある方、お願いをいたします。

久保田委員 社会科は3社あります。東京書籍・教育出版・日本文教出版であります。この中で、現在杉並で使っているのは東京書籍です。今回3社の教科書をいろいろ見ながら、改めて各社とも問題解決学習を踏まえた大変よいつくりになっている、いい教科書ができているなと私は思いました。

その中で、例えば防災教育というのが一つ、3年生から6年生まで大切な多年教材としてあるわけですが、それについても縦の系列で非常によい内容をうまく構成しているなということが言えると思えました。

その中で日文の4年生の教科書では、杉並区の防災の取組の様子を具体的に大変分かりやすく書いているなと思いました。

また、6年生の教科書について言うと、ちょうど4年前この場でも話題になったのですが、分冊はどうかということがありました。歴史編と政治経済編の2冊ですね。これについて、学校現場レベルで聞いてみる

と、やはり分冊でそれぞれがすっきりとまとまっていて使いやすいという声も聞いています。また、教科書調査委員会からも同じような報告を受けています。ということで、基本的には6年生の分冊については、一つの方向というのはできているのかなと思いました。

つまり、改めて社会科という教科の特性を考えた時に、絵図とか写真とか、あるいは統計資料等がどのようにレイアウトされているか、構成されているか等々がとても大切なポイントになってきます。

その点で3社とも、それぞれ工夫がされていて、とてもよくできていると思いましたが、その中で、私は東書の「つかむ・調べる・まとめる」という、いわば3段階の学習過程に合わせた表記が、分かりやすいように、3年生から6年生まで單元ごとに明示されているのですね。そうすると、児童にとってみれば、今どこを学習しているのか、どういうことを学習するのかというのが非常に分かりやすくレイアウトされている、構成されているなどと思ひまして、非常に使いやすいなどと思ひます。

また、デジタルコンテンツの方も豊富で、これも特に社会科という教科から言うと、とても活用しやすい、活用していけるところかなと思ひました。

更に細かいところで言いますと、東書の6年生の教科書は一番最初の単元の「大昔の人々の暮らし」のところで見開きページというか、折り込みが2つ重なっていて、開くとかなりの大きさになるのですが、ちょうど縄文と弥生が対比的に比べながら、いろいろ学習できる。また、江戸時代のところでは、「江戸のまちの様子」のところで熙代勝覧の絵図が見開きで非常に分かりやすく示されている。これをパッと見ただけでも、児童の興味・関心を喚起し、そして、児童が自ら目標を持って、主体的に取り組んでいける、まさに自分で調べ、考え、そして解決し、まとめていくという、そんな学習につながるかなと思ひました。

以上のようなことから、やはり今回も東書を推したいなど思っているところではあります。以上です。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

折井委員 実は、うちの息子が東京書籍さんの分冊を使って学習をしたのですけれども、とてもよかったのではないかなと思ひます。歴史は本当に流れをつかむことが難しく、ある時代と、その次の時代がどうつながっているのか、どういう変化を経て次の時代に行ったのかと

いうことを理解することがとても大事だと思いますので、この分冊はとてもいいのではないかなと思いました。

私は専門が英語教育ですが、教科書的には国語ですとか社会を見るのが楽しいので、本当に興味深く拝見させてもらったのですが、今回デジタルコンテンツがすごく充実しているなという印象がございまして、デジタルコンテンツの面で言うと、東書と日本文教出版がよかったかなと思います。教育出版の方も二次元コードで読み取りができるのですけれども、出てくるのがワークシートだったりするので、その場で子どもが見てとか使ってというのが少し活用しづらいのかなと思いました。

東京書籍の例えば聖徳太子のところですと、本当にミニ歴史番組みたいになっていて、とても楽しいですね。例えば教科書の中にはしっかりと載っていないのだけれども、天皇家と蘇我家が系列的にどんなつながりがあって、それが天皇中心の政治に繋がっていったというような、そういった時代背景とか政治的な背景とかもとても分かりやすくまとめているなど、デジタルの利点を最大限に活用している教科書なのではないかなと思いました。

ですので、私も東京書籍かなと思います。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

伊井委員 私も学習の進め方がパッケージになっている点について比較してみたのですけれども、学習問題の作り方として、見る・調べる・話し合う活動ということで日本文教出版さんは進めておられます。学習計画を立て、実際に活動していく過程がよく分かります。ガイドマークなどの形でまとめが載っているのもいいなと思いました。

その点が、実際に調べたり、関係者に話を聞いたりする活動のところまでは、教育出版さんの教科書はよく見えるのですけれども、まとめについてが提案型であったり、こんなところもあるね、こんなふうなやり方もあるねという、それが少し意外と難しかったり、そういう表現に対して理解が深められない児童もいるのかもしれないなと感じました。

東京書籍さんのものは、先ほど久保田委員の方からもお話がありましたが、学習の進め方がパッケージになっていて、「つかむ・調べる・まとめる」、私は更に、その後は「生かす・広げる」というところに焦点

を当てて拝見してみました。特に「まとめる」については、「広げる・生かす」にも工夫があって、相当吟味してこのページを作っておられることが伝わってくるような気がいたしました。

6年生の歴史ですけれども、まとめのところに「ヤマトタイムス」というのが載っているのですね、子どもたちがまとめたものが。これがセンスのあるまとめ方だなと、とても感じました。

国語や書写の教科書に、いろいろな表現の仕方が載っていたと思いますが、その単元があることを教科横断的に思い出した次第です。社会は、作業に主体的・対話的で深い学びそのものと思うものがいっぱいあります。自分で考え、友達ともやり取りをして、そして、まとめる時に深く考えていく、考えを広げていくという点で、パッケージになっていることで分かりやすいという利点が東京書籍さんの教科書にはあると思います。

政治の教科書の中で、「使う・調べる・まとめる・生かす・広げる」の中で、広げるというのに平和学習のまち広島を訪ねてというまとめ方があったのですけれども、1番「あの日を忘れない」、2番「未来へ」、広島からの平和発信ということで、その隣のページに毎年広島の小学生が行う「平和への誓い」、令和3年のものが載っています。今年も8月6日にテレビを拝見しましたがけれども、小学生の「平和への誓い」は本当に胸打たれるものだなと感じております。

それから、「まとめる」の中では、ほかにも歴史の、平安時代の文化の特色をキャッチフレーズに表して発表する形、短冊にして発表するような形など、それから「広げる」で、同じ平安時代のところなのですけれども、平安時代に栄えた平泉について調べて行って、発表しています。

「使う・調べる・まとめる・生かす・広げる」を繰り返すことによって、一連の学習の形の繰り返しがとても分かりやすいので、当初の教科書が望ましいかなと私も感じました。以上です。

教育長 ほか、いかがでしょうか。

對馬委員 今、まとめ方についてお話がありましたけれども、私も東京書籍の教科書のまとめ方は非常に工夫があっていいなと思っています。表に整理をしたり、図を使ったり、それから、例えば漫画がもともと描いてあって、そこの吹き出しが白くなっている、そこに文字を埋めようというのがあったり、それから、歴史のところで人物カードを作

ったり。

そうした上で話し合いをして、自分はこういう考えで、こういうふう
にまとめたのだよと話し合いの活動につながるようなまとめ方。今回、
政治のところだったと思うのですが、地域のところかな、ダイヤモンド
ランキングも出ていまして、非常にこれは新しいといえますか、い
ろいろなものにこのまとめ方を応用できるなと感じました。社会科の
この単元だけではなくて、大人になって仕事をする時とかにも使える
ような、いいまとめ方。

イメージマップになるようなまとめの紹介もあったのですがけれども、
実際に中学生と活動をした時に、何も指示を出さないのにイメージマッ
プでイメージを広げていっている子が何人もいまして、聞いたら小学校
の時に勉強をしたということがありました。

やはりこういう工夫はとても大事だと思うので、私もこのまとめ方の
工夫がとてもいいなと思って、東京書籍さんがいいかなと思います。

教育長 ほか、いかがですか。社会科も皆さん、東京書籍というご意見
がありましたので、社会科につきましては東京書籍で決定してよろし
いでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、社会科につきましては東京書籍と決定をいたします。

引き続き、地図に入ります。地図についてご意見のある方は挙手を願
います。久保田委員。

久保田委員 地図は2社です。帝国書院と東京書籍です。今、使ってい
るのは帝国書院になります。改めて今回の2社の教科書を拝見しまし
て、それぞれ、やはり現行のものより修正、バージョンアップされて、
とてもいい地図帳ができているなというのが私の印象です。

その中で東京書籍の場合は、3年生から地図帳を使うということで、
3年生を意識した導入というか、入り方の工夫がなされていると今回
思いました。表紙を開けますと世界地図が広がります。そこに挨拶と
か、あるいは食べ物、動物のイラストなどが紹介されていて、子ども
たちが思わずワクワクするような入り方なのですね。

そして、次のページを開けると日本地図ですね。日本地図とともに
47都道府県の名物等が、これもイラストを交えて紹介されており、こ
れも非常に3年生にとっても、あるいは4年生にとってもそうですが、

非常に興味深く、楽しくワクワク入れるイメージかなと思いました。

その後、開けてみると、今度はいよいよ3年生の知性の投入ということで、見開きで、いわば空から、上からふかんしたような絵図から入って、同じ見開きの中、右側の方の平面地図に移行するような形で示されていて、非常に分かりやすい入り方になっているなと思いました。

そして、あとは地図の決まりのページが続き、そして日本地図、日本の各地方の地図と続いていって、その後、世界地図、世界の国々、大陸ごとの地図、そして資料ページへとずっと展開されていきますが。今回やはり大判になったということで大変すっきり見やすく、分かりやすい地図帳になったなと思いました。

これに対して帝国書院の場合、基本的には入り方、構成は当初と同じなのですが、また今回一つ新たな工夫が入っているなと思いました。それは、通常ならば、3年生用の平面地図のところが終わった後、地図の決まりを扱うページがあり、その後、日本地図から日本の各地方の地図というふうにつながっていったのですが、その間に1つ新しいページを入れ込んだのですね。

それが広く見渡す地図ということで、要は日本の各地方の地図なのですが、今までの地図にはない非常に情報を抑えた、すっきりとした見やすいページが続くのですね。それを見ると、やはり3年生・4年生にとっては非常に日本地図、各地方の地図への導入として大変いいなと私は思いました。

その後、また日本地図、各地方の地図と展開していくのですが、今回新たな工夫でいいなと思ったのは、例えば関西のところの扱いですね。大阪のあたり、あるいは京都とか奈良とか、いわば関西の中心地、拡大の地図を示して、そこに更に江戸との結びつきという絵図を入れ込んでいるのですね。これが非常に今と昔をつなげていくという、そういった点で非常にいい構成になっているなと思いました。

それから、首都東京のところのページについても、今までの拡大版もとてもよかったのですが、そこに、ちょうど大阪のところと一緒にですが、新たに江戸時代との結びつきというところで絵図の資料をいろいろ入れ込んで、これまた今と昔をつなげて、いろいろと考えていくことができる、そんな工夫がなされているなと思いました。

そんなふうに今回新たな工夫が入れ込まれているということと、あと、

もう一つ、全体的に読むと、初めから終わりまで、「地図マスターへの道に挑戦」というコラムというか、小さな囲みがあるのですが、これがあちこちに出てきていて、クイズ形式というか、クイズ風に楽しみながらやっけていけるのですが、それが最後の方のページに、すごろくのような形で全部埋められるようになっていて、いわば地図帳で楽しみながら学び、そして、すごろくの図に出来上がるみたいな形で、これも1つ面白い、いい試み、工夫かなと思った次第です。

そんなところで、デジタルコンテンツの豊富さも含めて活用しやすい地図になっているなということから、今回もまた帝国書院を推したいと思います。以上です。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

對馬委員 私も地図帳を見るのがもともと好きなので、とても楽しく拝見しました。どちらの会社も非常に楽しい地図帳だったなと思います。帝国書院の方ですかね、3年生から6年生までの学びの流れがすごくよく分かって、何をここで学ばせたいのかが非常によく分かる。詳しいことは今、久保田委員がおっしゃったとおりだと思うのですが、歴史のところの地図なんかもすごく面白くて、私は興味を持って読ませていただきました。ですので、私も帝国書院の地図がいいかなと思います。

教育長 ほか、いかがでしょうか。

伊井委員 付け加えて、私も歴史の江戸時代の結びつきというところで、そういうページがあったのは、とても分かりやすいな、また、社会の教科ともつながる部分があるなと感じております。「地図マスター」についても、それから東書の方にも「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」ということで、クイズ形式で楽しみながら地図を学ぶ工夫がなされています。

地図上に、石川県のカニと福井県のカニは言い方が違うことなど、とても楽しいなと思って、對馬さんのように私も地図がこんなに楽しいものということで、大分地図に時間を割いて楽しませていただきました。

自然災害に関する資料は、東京書籍さんはとても写真が多く載っておりまして、また日本の川や世界の川、日本の湖、世界の湖などは大変分かりやすい表記になっています。日本の歴史の年表が世界との関わりと

いう視点で書かれていて、これはとても勉強になると感じております。

先ほど久保田委員の方から、すごく詳細にご説明いただきましたけれども、デジタルコンテンツなども、やはり地図という面で、江戸時代の結びつきのところでは、関ヶ原の戦いのふかん図みたいなのも出ていたり、下の方には「浮世絵に見る江戸時代」、「東海道の旅」、歌川広重の絵なども出ていて、とてもすてきなと思いました。

帝国書院さんの地図は、1 ページ、1 ページの色合いが、日本というのは、山岳地帯があったり、平地があったりという、その色分けが上手というか、分かりやすいなというのを感じます。杉並区では、小笠原に中学生が行っておりますが、特に先ほどお話しした「東京都とそのまわりの地図」というところの伊豆諸島、小笠原諸島の遠さ加減というか、こんなに距離があるのだという距離感としても、とても分かるような表記になっていて、帝国書院を引き続き使わせていただけたらいいかなと感じました。以上です。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。

折井委員 私は逆に、情報が羅列されている感じで、地図帳はあまり好きではなかったのですが、本当に楽しく拝見させていただいて、特に帝国書院さんの過去のものとのリンクというのでしょうか、そういうところを見ると、本当に、歴史というものをどういうふうに捉えてほしいかというところの編集方針というのでしょうかね、その思いが伝わってくるかなと思いました。

10年ぐらい前になるかと思うのですが、**「仁」**というドラマがございまして、江戸時代にタイムリープしたお医者さんのお話で、最後のエンディングのところ、江戸時代の例えば神田の辺りの写真が白黒で出た後に現在が映るのですね。それを思い出しました。それを映している意図、歴史は、過去の私たちとは全く関係ないことと思いがちなところを、そうではなくて、その時代、その時代に生きた人々の記録で、それがずっとつながってきて今になるという、その思いがすごく伝わってきて、地図帳楽しいかもと本当に今回思いました。帝国書院も東京書籍も本当に選ぶのが難しいのですけれども、そういった点から、ほかの委員のお話にも影響されまして、帝国書院で今回もいいのではないかなと思います。

教育長 ほか、よろしいですか。皆さん、帝国ということで、地図につ

きましては、帝国書院と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、地図につきましては帝国書院と決定をいたします。

続けて、算数に移ります。では、算数は私から言っていいですかね。算数という教科、新しい学習指導要領の趣旨から考えれば、算数の問題が解ければいいというわけではなくて、算数の問題にどう子どもが関わって、どういう思考を駆使して解決に至るかという、まさにどう物事を考えていくかを学ぶ教科なのだろうなと思っています。まさにこれが学習指導要領で言っている主体的・対話的な深い学びであり、そのためには、問題解決の過程が明確で、そして分かりやすいということが非常に大切な教科書の要素ではないかと私は考えています。

そういう視点で見た時に、私は東京書籍・教育出版、この2つがいいなと思いました。まず東京書籍ですが、問題解決の流れが非常に丁寧で明確に作られている。これは全ての学年、全ての単元において、そのような教科書のつくりになっているというのは大変すばらしいなと思います。

それから東京書籍は、1年生が大判なのですね。あと、大日本と啓林も確か大判だったのですが、大判の教科書は、先生たちに聞いたら、教科書を開いて作業をするのが非常にやりやすい。書き込んだり、あるいはブロックを並べたり、いろいろな1年生の作業活動があるのですが、非常にそれがやりやすいという先生たちの意見もありました。ということで、東京書籍を私は候補の一つとして挙げました。

もう一つ、教育出版なののですが、教育出版の1年生は大判ではなく、全学年同じ大きさなのですが、教育出版の教科書は、一言で言うと、非常に子どもたちにしっかり物事を考えさせる教科書になっているなと思っています。先ほど冒頭で算数の大事なことを私なりに話をしたのですが、物事を考える時には、例えば複雑なものは分けて考えていくとか、あるいは、今までの学習から予想して、こうではないのかと仮説を立ててみるとか、今自分が結論を出したことが本当にほかの場面でも言えるのか、いつでも言えるのかとか、物事を考える考え方というのがあはずなのですね。

実は今言ったようなことが教育出版の教科書は、「算数で伝えたい見方・考え方コーナー」というのが教科書の中にあって、いわゆる、どの

ように算数の問題を考えていくか、ひいては、算数の問題から進んで、世の中の問題をどう考えていくかというところまで広がるような、そういったつくりになっている。だから、子どもたちにしっかり考えさせる教科書になっているというのは、そういった意味です。

また、3年生の小数と分数、どちらから先に導入するかというのは、いろいろな考え方があるのですが、教育出版は分数からの導入なのですね。あと啓林もそうなのですが、それ以外は小数からの導入。小数は十進位取り記数法に基づいた数ですから、もちろん十進位取りという点では系統的になっているのですが、数の発生は分数から発生しているし、それから今2年生で分数の学習をしていることを考えると、3年生の分数導入というのが、これはいいなと私は思っています。

もちろん2年生でやる分数と3年生でやる分数では意味が違うので、一概には、一つではないけど、2年生の分数の表記という、2分の1とか4分の1という表記を習っていることを考えると、3年生は分数から入るというのも1一つのいい手だなと。そういうふうに採っているのが教育出版であると。つまり物事をしっかり考えさせるという点で東書・教育出版と、この二つを私はいいなと思っていますが、今、自分で話しながら思うのは、教育出版の方がやや優勢かなと思っています。

ほかに、いかがでしょうか。

折井委員 私は数学・算数は苦手なので、苦手な人からの視点ということになってしまうかと思うのですが、啓林館は、私が所属している教育学部の数学科の先生が、数学は面白いのだよ、算数は面白いのだよという、その楽しさだとか、数学的なセンスのようなものを伝えたいのかなという教科書に感じて、その点で、できる子には楽しいけれども、理解がなかなか進まない子にとってはちょっと難しいのかなと。習熟度別の高いレベル向けなのかなと思ったのですが、どうしても公立ですので、全員が同じ教科書を使うという点で、ちょっと啓林館は難しいのかなと思いました。

私は東書がいいなと思っていまして、スタートブックは、やはり算数との出会いとして1年生が入りやすい工夫がされていると思いました。また説明がとても丁寧なのですよね。たくさん書いてあって、しっかりと理解ができる教科書だなと思いました。一方で、教育長がお話しされたように、授業で使う時は少し説明が多いのかなという印象

も持ちました。

伊井委員 調査委員会の方とお話をさせていただいた時に、まずデジタルコンテンツは、結構どこの会社もいいなと思って、教育出版さんや、それから東京書籍さん、いいなと思っています。先生方の方からは立体として捉えたり、実際に作るのが分かりやすい子もいるので、巻末についている付録とデジタルコンテンツを両方使いこなしていくというお話もありました。

それから、今回、教育出版さんの教科書を拝見した時に、数直線で表す表記がすごく多いなということに着目してしまって、これも調査委員会の方で伺ったら、数直線は教育出版の特徴で、様々な項目に数直線を使用しているの考え方が基本となっていて、大切な捉え方となっています、というお話がございました。

それで、どこから数直線を使っているのかなと思って、1年生からずっと見ていたのですけれども、1年生の初めのページに「いろいろなことが算数とつながるよ」と書いてあって、これは導入としてとてもいいなと思いました。アサガオの種を数えたり、これはすごく生活科につながっていると思うのですが、そんな表記もあって楽しいなと思いました。

2年（下）の「学びの手引き」のところで、数直線とは書いていないのですが、数の線の仕組みとして基本的な考え方が記載されています。

3年（上）は「1万より大きい数」、「入場券は何枚かな」という、この導入がすごくよくて、分かりやすくなっているなと思います。

4年生の（上）の「いろいろな数を調べよう」。「神奈川県のある数」ということで、「消防署の数」、「シューマイの消費額」、「大根の収穫量」、これなんかもすごく生活に密着しているなと思います。

子どもたちにとっては、問題の内容が大変身近な内容からスタートしていて、小学校生活の中にあるもの、それから、身近な日常の生活の中にあるものにアクセスしていて、とてもいいなと思います。例えば「算数を使って考える」にある、ハンバーガーショップで50円券と10%引き券、どちらを使うか考えるなんていうのも、実際に日常の生活に生きて、私はどうしようかなと思っていつも50円券を使ってしまうほうなのですが、そういうことも、こういうものから多分計算の仕方が慣れ

っこになっていればアプローチできるのかなと感じました。

今回、教育出版さんの「いつも大切にしたい算数の考え方」、「順序よく考える」、「似た問題と比べる」、「わけをはっきりさせる」。ここですね、「わけをはっきりさせる」というのが、自分がどれだけ今までやってきたかなということをととても反省させられました。あと「ほかの場合も考える」。一つの問題に対して軸になる考え方がある、そこにキャラクターの子たちが、こういう考え方もあるよ、こんなふうに次は考えたらどうかなとヒントを出し、それを一つ一つ解いていって、解に向かっていくという流れがととても確立されているなと思いました。

区民アンケートの中に次のような記載がありまして、先日、息子に算数を教えた時に、教育出版さんの教科書ですね、巻末の「学びのマップ」が非常に役立ちました。お母様が教える時にとても役立った。それから、先ほど私もお話ししたのですが、算数が実生活とつながっていると分かる教科書だと思う。「どんな学習が始まるかな」で始まり、「算数ワード」で終わる構成になっているのがとてもよい。そんなような区民アンケートもございましたので、私も教育出版がいいなと思います。以上です。

教育長 ありがとうございます。ほかに、いかがですか。

久保田委員 先ほど折井委員がおっしゃったように、私も東書の教科書が分かりやすいというか、自分が担任だったら教えやすいなという印象を持ちました。でも、伊井委員の話を聞きながら、一方で、ひょっとしたら数学的な考え方を身につけていく、深めさせていくということであると、担任の方でパターン化に陥ってしまうのではないか、そんな恐れも今、感じたところです。

ということで、改めて私がいつも思っている、算数という教科の中で各学年つまずきやすいところがあって、私の経験上、5年生の割合の単元が非常に難しかったなということがありますので、割合の単元のことでも少しお話ししたいと思います。

5年生の教科書、割合の単元のところで、まとめとして、割合は「比べられる量÷元にする量」としているのが、昔からずっと言われてきているパターンですが、それが2社なのですね。これが東京書籍と学校図書ですね。

それから、似ているのですが、割合は「比べる量÷元にする量」とい

うのが3社あります。これが日文・大日本・啓林館なのですね。一体、比べられる量と比べる量、どこが違うのか、同じなのか、いつも議論になるのですが、それについて私はどうこう今、結論は言えないのですが、ただ、大方昔から比べられる量とか比べる量、これをキーワードとしてずっと使ってきています。

それに対して、1社だけ違うまとめを使っているのが教育出版です。割合は「比較量÷基準量」と、1社だけが非常に5年生にとっては難しい言葉で出てきているのですね。というのも、よく調べてみると、学習指導要領の中の記述としては「割合は比較量÷基準量である」とはつきり書かれているのです。明記されているのです。ということは、これが一番の大事なキーワードであり、この割合の単元では、これを基にどう子どもたちに考えさせていくかというところがポイントなのかなと思うのですね。

そこで、先ほど伊井委員が線分図の話をしました。5年生の割合の単元に限らず、線分図をあちこちで使いながら、この割合の単元においても、比較量と基準量をしっかりと押さえて、5年生の子どもたちに、どう考えるのか、その考え方を身につけさせていくというところで、かなり教育出版の教科書では力を入れているところなのかな、そんなふうに思った次第です。

いわば、丁寧に考えることとか、学びの過程ですね、考える過程、学習過程、それを大事にしていこうというのが教育出版の教科書のつくりになっているのかなと今回改めて思いました。

そして最後、付け足しです。伊井委員の方で「学びのマップ」の話をしてくださいましたが、私も、巻末の方のページで、あるいは単元の終わりの方で、「算数を使って考えよう」というページとか、あるいは「広がる算数」というところ、これは教育出版らしいところかなと思ったのです。例えば「算数を使って考えよう」では、様々な問題を通して考えさせます。もう一つの「広がる算数」の方では、生活と密接につながった問題を考えさせるといったところから、まさに数学的な見方・考え方を働かせて考えていくというような形になっています。その辺もいいところかなと思いました。

結論として、教育出版でよいと思います。

教育長 ほかにいかがですか。

對馬委員 一言だけ。私、割と言葉に敏感なほうかと思います。日本語の数え方は非常に難しいですよ。鉛筆は、1は1本（ほん）で、2は2本（ほん）で、3になると3本（ほん）になって、4になるとまた4本（ほん）になる。

本を数える時は、本ではなくて1冊・2冊と数えるとか、非常に難しいのですけれども、実は教育出版の教科書の1年生の巻末に「もの数え方」という一覧表が載ってしまっていて、いろいろなものが出てきて、それをどう数えていくか、1の場合・2の場合・3の場合・4の場合と大きな一覧表が載っています。

杉並にも今、日本国籍ではないお子さんがたくさんいらっしやって、非常に言語を学ぶ上でも難しい、日本語の数え方は本当に難しい。日本人であっても、小さい子どもは、小さい子どもでなくても、最近全部個で、何個、全部それで片づけるという話もよく聞きますが。なので、これは非常に私は大事なことをここに載せてくれていてありがたいなと思いました。一言ですが。今のは教育出版の教科書でした。

教育長 ありがとうございます。話題は東書と教育出版がありますけど、教育出版の方がたくさんご意見が出たかなと。折井委員はどうですかね。

折井委員 お話を伺っていると、すごく順序立てて、しっかり説明をしてくれているのが東書。教育出版は、説明をしっかりしているのだけれども考えさせるということ、数学的な考え方をしっかり小学校の時に身につけてほしいということで、いろいろと工夫をしているというところで、今回も教育出版でよろしいのかなと思います。

教育長 それでは、算数は教育出版ということでもよろしいでしょうか。

（「はい」の声）

教育長 それでは、算数につきましては教育出版と決定をいたします。

引き続き、理科に参ります。ご意見のある方は、お願いいたします。

折井委員 理科は、東京書籍・大日本図書・学校図書・教育出版・啓林館の5社から選ぶことになります。信州教育出版社は見本本がないので、今回は対象とできません。

各社非常に似たつくりであると感じました。学ぶ対象について、自分の生活との関りの中で、自分でまず考えを持って、問いを立てて、その上で実験をして、それを踏まえて知識も身につけるということが

大切だという編集の方針がすごく明確に打ち出されているなど感じました。

その時に、初めに「考えてみよう」という場面が必ず各社あって、その後、問題をつかんだ上で予想を立てて実験をするという流れになっていくのですけれども、2つのパターンがあって、結果のページですね。自分で考えてみよう、予測も立てようで、そのまま結果も同じページに載っている教科書と、そうではなくて次のページにあるという教科書で分かれました。私は子ども側の実験に対するワクワク感だとか、しっかりやろうという、しっかり結果を観察しようという気持ちだとか、実験に真剣に取り組むところだとか、そういったことを考えると、やはり結果のページは次のページにあって、同じ見開きのところがない教科書がいいかなと思いました。

そうすると、大日本図書と啓林館に絞られるのではないかなと思いました。この点については、教科書調査委員会でも質問したのですけれども、やはり同じページにないほうが授業はやりやすいというお話でしたので、この2社がいいかなと思いました。

教育長 ほかに、いかがですか。

伊井委員 私も折井委員と同様に啓林館と大日本図書さんに注目しました。というのは、啓林館さんの教科書は、3年・4年・5年・6年なのですけれども、どの学年も教科書を開いた最初の写真がすごく効果的に配慮されていて、写真そのものも美しいのですが、写真に付されている文言が、3年生は「あっ！ナナホシテントウのもようって…」となっているのです。4年生は「おっ？シャボン玉のまくが！」、5年生は「えっ？空中にうかぶ電球！」、本当に浮かんでいる写真なのです。6年生は「えっ！野生のコウノトリが日本にいなくなったことがあるって本当？」。どうしていなくなったのだろうとか、いなくなった時期があるということの追究のところは、なかなか面白い表記になっているのです。

啓林館さんは、このように理科の楽しみ方が、ちょっとまた角度が違って面白いかな、少し観点が違うところに言及しているかなというところが興味深いかなと思いました。「地球のために・未来のために」、
「SDGs」と、それから「STEAM教育」にも触れていて、とても興味深いのは、杉並区でも今年STEAM教育に取り組み始めるという学校もある

ようなお話を伺っているので、大変期待感を持っています。

これは啓林館さんの話ですけど、巻末に「オッターの資料室」ということでいろいろなことが資料としてまとめてあったり、書くという点では記録カードの書き方や、それから、観察カードの書き方なども詳細に書かれています。

写真も豊富で分かりやすく、応用的な学びを提案されていて、広がりがある面白いと思うのですが、そういう意味では緩急の効いている教科書だと思うのですが、1点、調査委員会からの記録、各校からいろいろな意見として、小学校の各校、1校1校から先生方が分析したり、研究したものを拝見したのですが、その中に、実験の順番が啓林館さんのものは少し心配と書いていらっしゃる方が何校かありまして、それはなぜかと言うと、水溶液の実験が、暖かい時期にやることになるのではないかというご心配と、それから3学期に電磁気と発電機ですね、それから自走の実験、てこの実験など連続で単元があるのがきついのではないかということをご心配していらっしゃる先生がいらっしゃいました。

先生方は、こういった全体の流れを考慮されているのですけれども、1点、算数の進み具合と並列して考えると、大日本さんの方がやりやすいのかも、授業を進めやすいのかもしれないなと感じております。

大日本さんの方は、問題解決型の学習の進め方になっていますので、問題予想・計画・実験・結果・考察・結論、問題を見つけて次の問題、そして、またそれを予想していくという形で進められており、先ほどもお伝えしたように、写真や図が豊富であって、特に実験の時の写真が多く、道具の使い方とかも詳細に記載されています。

それから単元が、結局さっきのお話なのですけれども、適切に配置されていて、分かりやすくなっている。あと、教科書がほかの会社よりもA4判で大きいのが少々気になるのですけれども、そのことによって、単元の始まりが2ページの見開きになっていて分かりやすいというよさがあります。

それから、単元の最後に学習内容の振り返りがあって、学んだことを生かすことができる、次につなげることができるなと思っています。

それから「りかのたまてばこ」、「Science WORLD」などが大変有効で、発展的教材の資料が豊富ということが使いやすい教科書につながるのではないかなと思います。

区民アンケートの中にも、こちらの教科書、大日本さんの教科書ですが、こちらの教科書は一番伝えたいこと、気付いてほしいことは明確なデザインになっていると思いました。とても目に留まりやすい、ストレスなく読むことができると感じましたというアンケートのお話もございました。

啓林館さんにもとても引かれるところですが、引き続き大日本図書さんのを使わせていただくのでどうかなと私は思いました。以上です。

教育長 ほか、いかがですか。

對馬委員 私も最初折井委員がおっしゃったように、結果が実験の手順と同じページではなくて、やはり違うページにあるほうが使いやすいような、子どもとしても、そっちの方がワクワクして学べるような気がいたしまして、そうやって今、絞った2社の話が進んでいるわけですけれども、そうした時に、大日本図書さんは、導入がQRコード動画で示されているのも非常に興味を持てる場所だなと思いました。発展資料も多くて、問題意識も持ちやすい形になっているかなと思います。

もう一つ、自由研究のページが見開きで、これは啓林館さんの方にもありますけれども、大日本図書さんの方には、タブレットの使い方、インターネットの使い方について、ちゃんとお家の人に相談しなさいとか、注意してねというのを赤枠に囲んで各学年に全部あるのですね。これは、やはり大事な注意点なのかなと感じましたので、大日本図書がいいかなと思います。

久保田委員 今、對馬委員から導入の際の二次元コードの有効的な活用の話が出ましたが、初めの部分と、もう一つ、終わりの方の部分でも、やはりいろいろな工夫があったなと私も思いました。伊井委員から「りかのたまてばこ」とか「Science WORLD」の話が出ましたが、私が一つよかったなと思っているのが、理科の学びに役立てようというところなのですね。

これを各学年でよく見てみると、それぞれの学年の理科の学習、学び方の大切なポイントというのがよく分かるように整理されていて、まとめられていて、なおかつ、応用・発展への手がかりになるページになっておりまして、これが大日本の一つの特徴というか工夫点かな

と思いましたが。大日本がいいかなと思います。

教育長 今、啓林館と大日本と出ましてけど、皆様のご意見は大日本がいいかなということだったかと思いますが、よろしいですか。それでは、理科につきましては大日本図書に決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、理科につきましては大日本図書と決定をいたします。

それでは、1時間半、90分ぐらいたちましたので、ここで一度休憩にしたいと思いますが、よろしいですか。それでは、あの時計で35分まで10分程度休憩といたします。

(休憩)

教育長 それでは、ただいまから審議を再開いたします。引き続き、生活科ですね、生活科についてご意見のある方はお願いいたします。

伊井委員 生活は6社あります。使用するのは1・2年生です。教科書の大きさは、東書さん・大日本さん・教育出版さん・光村図書さんがA4判、学校図書さん・啓林館さんは、それぞれ少しずつ高さが低くなっていて持ちやすい利点があります。量ってみましたが、重さはほぼ同じでした。

生活の教科書を読み、内容の前に印象的だったのが、教科書の中で使っている言葉がとても穏やかで、分かりやすく、親しみやすい。吹き出しの中とかにも子どもたちに呼びかけるような言葉がありますが、とても優しく分かりやすいです。

また、各社キーワードになるようなフレーズを採用されていて、吹き出しの中の言葉も大切に作られていて、優しく学びへとアプローチできる道筋となっているなど感じました。観点もとてもよくて、こちらが教えられることが多々ありました。

例えば、開いてすぐの導入のところですけども、大日本さんは、「みんなのことをおしえて」、「たのしいよ、1ねんせい」、東書、「がっこうせいかつ すたあと」、「はじめまして、きょうしつう、どんなところかな」、「はじめまして、ともだち、いっしょにあそぼう」、学校図書、「なかよくなりたいたね」、「じぶんでできるよ」、教育出版、「わくわく、どきどき、はじめのいっぽ」、光村出版、「いちねんせい がはじまるよ、さあとびだそう」、啓林館、「いくぞ！がっこうたんけんたい」。

こういった題名もとても引かれるなと思ったのですが、光村図書さんは、絵本作家のヨシタケシンスケさんのイラストが使われていて、表紙などの装丁が柔らかい雰囲気を出しています。またページの中に「こんなこともあるかもね」というコラムみたいなのがありまして、そこにも優しい言葉とイラストで、学校生活の日常場面が描かれています。

それから啓林館、初めの方に、「たくさんあそんだね」と入学前の楽しかった思い出に触れるページがあって、そのあとに「がっこうもたのしいよ」と導入しています。続いて「なかよくなりたいな」と緊張感をほぐし、「もっとがっこうをしりたいな」と丁寧に入っていています。それから、通学、遊ぶときの安全確保についてや、手洗い・うがいなどにも早い時点で触れているのがいいと思いました。

教科書の大きさは、啓林館さんはそんなに大きくないほうですが、写真の大きさ、配置、伝え方はとにかく上手だな、どんどん興味が湧いて引き込まれていく形になっているなと感じました。

それから、今まで使っていたのは大日本図書ですが、初めの方に、やはり通学中や遊ぶ時の安全を確保する方法が掲載されています。それは啓林館同様、初めの方にあるのは、例えば「いかのおすし」とか「おかし」のとかですね、これは杉並区でもセーフティ教室を実施して、教えてもらっているの、大変身近な形なのかなと思いました。

それから、大日本図書には「たくさんの人に守られているね」というページに杉並区のキャラクターなみすけとナミーの止まれのマークの写真が使われていますね。また上巻では秋の自然でビンゴゲームを作るページがありますが、杉並には自然観察のグループがありまして、実施している学校もあるので大変身近かもしれません。それから大日本図書は、まち探検の時に「町のキラリ」、まちのお店の方や働く方々を「町のキラリさん」と呼んでいるのが、なんとすてきな呼び方で、キラリという響きがすてきだなと感じました。

下巻の終わりに、葉っぱアートのリトさんの作品が載ってまして、発達障害がありながらも活躍している方なので、ユニバーサルという意味でも大変いいなと思いました。どの教科書も、まちを訪問する様子など、また、そこへ向かう活動なども含めまして、本当に丁寧に作られていると感じています。

今回、ちょっと注目したのが東京書籍です。裏表紙のところに「保護

者の皆様へ」といって、生活科の大切な視点だなどということが書いてあります。「小さな気づきを大きな未来に」、その結びの保護者と学校が手を携え、児童の学びを支えていく、その一助を担えればということが書いてあります。とても感動いたしました。東京書籍はデジタルコンテンツが多くて、情報も多いので、タブレットの扱いにも慣れてきたら、1年生にとっても映像から入って使いやすいのではないかなと、ふと感じました。

それから写真の使い方も、大日本図書さんも上手なのですけれども、大判を生かした大きな写真でインパクトがあり、興味・関心を引きます。植物の種から双葉、つぼみへと変化する様子をページの幅を少しずつ短くしながら紹介するなど、見やすいです。また、春夏秋冬のまちの絵がすばらしくて、全体が系統づけられていて学びやすいです。

情報もほどよく大判のよさが生かされているのが、東京書籍、それから大日本図書だなどと思いました。どちらもそれぞれに特徴があって、全体の学習の流れや進め方が分かりやすいのはどちらかなというところで結論をまだ出せないでおりますが、今回は東書もいいなと、捨て難い感じの思いです。

あと、東京書籍は、虫などの飼い方のところで、挿絵や図も分かりやすいのですが、吹き出しで「どこがちがうのかな」と注目点を示唆したり、「かいかたがわからないときはどうしたらよいのかな」、という問いに「ほんでしらべる」、「くわしいひとにきく」、「インターネットでしらべる」と幾つもの方法を提案しているのがいいなと思いました。

上巻では校庭の様子とか公園のふかん図のような絵があり、生活に密着しています。それから下巻の方には、同様に校庭と、それから公園の絵がまちの絵に移り変わっていて、また、その絵がすばらしいなと感じました。春夏秋冬があることがよく伝わってきます。また、昔遊びを地域の方と一緒に楽しんでいる写真が複数あり、杉並区でも幾つもの学校が昔遊びの交流をしていると思われるので、大変身近であるなと思いました。

以上、使いやすさの点、それから絵や図の配置、丁寧さ、写真のインパクト等で、大日本図書さんと東京書籍さんに私の中では絞りましたが、どちらも捨て難いな、でも東書もいいなというところで感じております。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。

久保田委員 私も大日本と東書がいいなと思いました。やはり両社とも写真の見せ方がとてもうまいですね。そこから、子どもたちが課題づくりとか、あるいは活動のイメージづくりとか、そういったところにつながっていくのかなと思いました。

その中で東書の場合は、やっぱりデジタルコンテンツが豊富であるということが一つ優れているかなということと、関連して、コンピューターの使い方とかIT社会を見据えた内容構成になっているなということも感じました。特に巻末の「かつどうべんりてちょう」というのがとても分かりやすいのですが、いろいろなものが紹介されていますが、その中にコンピューターを使おうというのが1年の教科書にも2年の教科書にも載っていて、生活科で見ても、1・2年生においても、タブレットを使いこなしていく、使っていけるということが示されていて、これは大変役に立つなと思いました。

ということで、強いて言うなら東書かなと思います。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。

對馬委員 今使っている大日本図書もいいと思いますし、確かに皆さんのおっしゃる東書も大変いいと思います。東書は特に計画、話し合い、発表とか流れなんかも大変分かりやすくていいと思うのですがけれども、指導要領の変わっていないタイミングで、教科書採択で教科書会社を替えるのは、私たちもとても勇気の要ることだとは思うのです。ただ、生活科に関しましては、教科書調査委員会の先生方のお話を伺った時にも、国語や算数と違って、教科書に沿って授業を進めていくというよりも、いろいろな活動の参考にすることが多いと伺いましたので、そういう意味では、現行の教科書にこだわることなく、相談して、今回は東書の方がいいかなというのであれば、それにしてもいいかなという感じがいたします。

折井委員 生活科という授業が、理科だとか国語だとかよりも少し授業の感じが、現場での様子が少しイメージしづらかったので、教科書調査委員会のところで質問したのですがけれども、教科書は引き出す材料だと伺いました。対象との出合いが大切で、写真や観察カード、いずれも大切であるということ。また、やはり巻末にまとまって注意事項だとか情報が載っているのも使いやすいということで、巻末が充実しているのは東京書籍、学校図書の巻末の「まなびかたづかん」、光

村図書の巻末資料編とかがよかったと思うのですが、引き出す材料だということは、説明が全部書いてあると、逆に引き出せなくなるわけですよ。なので、1年生の子たちから引き出すための材料として、効果的な写真やイラストを見て、それから、お互いに考えを出し合って、深めて、探検に行くなら探検に行くといったようなところの使い方をする、かつ、調べる時の情報が最後にしっかりまとまって載っているという二つが今回一番満たされているのは東京書籍かなと思います。大日本図書もとてもいいのですが、今回、私の中では東京書籍に軍配が上がります。

教育長 皆様のご意見を見てみると、東京書籍というご意見が多いように思いますが、生活科につきましては東京書籍と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、生活科につきましては東京書籍と決定をいたします。引き続き、音楽に移ります。音楽についてご意見のある方、お願いをいたします。

伊井委員 音楽には2社ございます。教育芸術社さん、今使っているのがこちらです。それから教育出版。どちらも古い曲・新しい曲が取り入れられているのですが、曲の説明、難しい言葉の説明は、教育出版がとても丁寧にされていました。それから、オーケストラの写真とか鍵盤ハーモニカの弾き方の説明は、写真が大きくて、指の動かし方とかも詳細に載っているので、自分でも進められる教科書なのではないかなと思います。

それから教育芸術社は、「学習マップ」というところで、その学年を見通すことができ、**「学習マップ」とともに、巻末にある「ふり返りのページ」**では学習したことが整理され分かりやすく、また、次の学年の学びにつなげるのにも効果的だと思われま

す。二次元コードが二つの会社ともありますが、教育芸術社は二次元コードが右ページの右上の位置に決まっています。取り上げている曲をここから聴くことができます。音源として聴くことができるので、子どもたちが聴きそびれたところとか、あと音符の流れが分からなくなってしまった時とかにも、とても振り返りがしやすい、復習がしやすいのではないかなと感じました。

鍵盤ハーモニカも、教育出版よりはページ数は少ないというか、ちょっと絵のところがあったりしますが、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、また、お琴の説明が写真つきで丁寧です。

それから楽曲に関してですけれども、児童の発達段階に応じた身近な楽曲が多く、教材の数も多数載っています。配列も発達段階に応じて配列されています。特に歌唱では、歌ですね、「歌声ルーム」というコーナーがあり、口の開け方、姿勢なども学ぶことができます。

こうしましょうという吹き出しのような説明書きのところや、活動の目的を書いているところがあって、ちょっと文字が多いという調査委員会からの意見もありますが、質問をした時に、逆にそれが自習する時には役立つ、児童が自分で学ぶ時にはそれが助けになるというお話もございました。ということで、題材ごとの狙いが明確なので、それが積み重なることで次の題材に生きていくと思います。

2年生で輪唱、4年生で二部合唱、5年で部分的に三部合唱、6年で三部合唱へと進み、中学校での混声合唱へとつなげています。高学年では変声期の歌い方の工夫も書かれていて、いいなと思いました。

それから写真や挿絵などは、それぞれの会社、大変工夫していらっしゃると思います。日本の歌なので、教育出版は大きな写真を見開きで使ったりして、とてもイメージがつかみやすいなというところもあります。また、これは教育芸術社の方ですが、行事にも触れて、ほかの教科への関連づけも行われているという点がございます。

古い曲・新しい曲は、やや教育芸術社の方がバランスはいいのかな、子どもたちが知っている曲が多いのかなという感じがいたしますので、昔の曲を出す時も、日本の童歌とか、唱歌ですね、それを出す時も必ず意味が載せてあるので、今の子どもたちにも大変親切だと思います。区民アンケートの中に、意味は分からず自分は歌っていたけど、今はそういう説明があるからいいなというご意見もございました。

ということで、教材のバランス、それから説明の丁寧さ、自分で自習するという点から教育芸術社がいいのではと思います。

教育長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

折井委員 私も教育芸術社がいいと思います。デジタルコンテンツを幾つか見てきたのですけれども、子どもの困ったを助ける工夫があるなと思いました。例えばリコーダー、小学生はリコーダーを中学年から

使い始めますけれども、例えばうちの息子なんかは卒業式の時に、コロナ禍だったので、合唱ができない代わりに学年演奏をしたのですね。その時リコーダーをたくさんやったりとか、本当に小学校を通じて使うのです。その時に二次元コードを読み取ると、例えば教育出版だと、音を出している様子を、人が吹いている、その姿を映し出している形になるのですが、指先があまり見えないのですね。数秒で終わってしまうものになっています。

一方で教育芸術社の方は、吹いている様子は出ていなくて、ある種、音しか流れないのですね。ただ、音源再生の下のところ、ここを押さえるよというリコーダーの形が出ていて、押さえるところが黒くなっているみたいな形で、指をこうすればいいのだということがわかります。子どもが、この音はどうなのかと適当に指を動かすのではなくて、分からない時にきちんと役に立つようなデジタルコンテンツになっているのは、とてもいいなと思いました。

教育長 教育芸術社ですか。

折井委員 教育芸術社がいいと思います。

教育長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。

對馬委員 私も教育芸術社の方には著作権についての記述がございました。これは、やはり今の時代特に大変大事なことだと思いますので、私も教育芸術社の方に1票入れたいと思います。

久保田委員 私は教育出版の教科書を見て、写真とか見開きページ、折り込みページの使い方がとてもうまくて、それを見るだけでイメージづくりとか、子どもたちの意欲につながるなと思いました。

もう一つ、教育芸術社の方では、特徴としては、やはり題材ごとに1年生から6年生までの説明が細かいというか丁寧というか、学習のポイントが分かるように示されているのですね。これが子どもたちにとって、もちろんよいことでありまして、実際教える側からすると、音楽専科教員だけでなく、学級担任が音楽の授業をやる時でも大変助かるかなと思いました。ということで、教育芸術社でよいかなと思います。

教育長 皆様、教育芸術社という名前が挙がっておりますので、音楽につきましては教育芸術社と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、音楽につきましては教育芸術社と決定をいたします。

引き続き、図画工作に移ります。図画工作についてご意見のある方、
お願いをいたします。

折井委員 図画工作は日本文教出版と開隆堂の2社から選ぶことになり
ます。図画工作という科目の性質上、教科書を1ページずつめくって
学習を進めていくような形ではないのではないかとということで、教科
書の活用方法・利用方法について、教科書調査委員会に質問をいたし
ましたところ、教科書には対話的な学習を期待できるような児童の活
動の様子が載っていること、造形的なよさを味わうことやインスピレ
ーションの基となるような、よい作品例が載っていること、それがバ
ランスよくあるといいねというお話がありました。

その点で、2つのことをバランスよく扱ってくれている日本文教出
版の教科書が、やはりいいのではないかなと思いました。

教育長 ほか、いかがですか。

久保田委員 私は開隆堂の教科書を見た時に、子どもたちのアップの写
真がとても多くて、そして、その表情がとてもいいのですね。ですか
ら、子どもたちの活動の様子というか表情、写真だけ見るならば絶対
にこちらかなとも思ったのですが、やはり教科書なので、写真集では
ないので、子どもの活動の様子と作品とか、あるいは学習の流れとか、
そういった構成も含めたバランスというのが大事になってくるかなと
思いました。

その点、日文の方は子どもたちの活動の様子と作品がバランスよく
載っていて、構成されていて、やはりいいなと思いました。更に、題
材ごとに細かく説明というか、丁寧になされていて、それも子どもた
ち、あるいは教師にとっても大変役立つところかなと思ひまして、や
はり日文でいいかなと思います。

教育長 ほか、よろしいですか。私も日文に、先ほど音楽の時に對馬委
員がおっしゃった著作権が、ここも書かれていて、ネット上の写真な
んかを勝手に使ったり、紹介したりしないと。今こういうことは、し
っかり教えてあげないといけないことなのだろうなと思っています。

あと、日文の3・4年生だったかな、「ひらめきのタネ」という見
開きのページがあって、いわゆるアイデアに詰まった時というのです
かね、発想がうまくいかない時にどうしたらいいか。例えば、いろい

ろ遠くから眺めてみましょうとか、近くから眺めてみましょうとか、くっつけて考えてみましょう、離して考えてみましょうと。煮詰まってしまった時に、こうやったらいいと。心をリラックスしましょうなんていうのもありましたけど、そういうのも面白いなと思いました。

ということで、日本文教出版で図工はよろしいでしょうか。

伊井委員 一つだけエピソードをお話ししたいと思います。図工の時間は、児童によっても好き嫌いがあるかと思うのですが、夢中になって作品に取り組むいい時間なのではないかなと感じます。かつ、授業だけでは時間が足りなくて、展覧会に提出する作品を完成させるために、昼休みや放課後に図工室にやってくる子どもたちの見守りをやったことがあるのです。

作るのが遅れてしまった理由はそれぞれあるのですが、自分の中の完成というものは一人ひとり違うので、その熱心な様子には感動するばかりだったのですね。ほとんどが自主的に来ていた印象でした。その時の図工の先生は、お昼休みに来ていいよとおっしゃっていましたが、図工が好き、ものづくりが好きという気持ちは、上手だったり、器用にこなすという気質だけに支えられているわけではないのだなと感じました。

ほんの一か所うまくいかなかった、そこがうまくいったことがきっかけで表情が変わり、俄然やる気になった子がいたり、友達同士、相手の思いも受け入れつつ、アドバイスし合ったり、どっちがいいとか聞き合う姿もほほ笑ましいなと思います。その結果、出来上がるものが似ていることもあるかもしれませんが、それもいい意味でのやり取りの結果と私は見ていました。

何色で塗るのか、どう塗るのか、何を使って、そこをどうするのか、決めるのは結局自分ですね。そんな中で日本文教出版の教科書は本物がたくさん配置されていて、それが随所の、どんなページにもあったりします。また、下巻の巻末にミニアートカードもありますし、もっと大きい写真で、全国の美術館だけでなく、海外の美術館にあるアート作品も多数紹介されていますので、子どもたちが本物に触れるという意味でもよい機会なのかなと思いました。以上です。ということで、日本文教出版がいいと思います。

教育長 それでは、図画工作につきましては日本文教出版と決定をいた

します。

続きまして、家庭科に移ります。家庭科について、いかがでしょうか。お願いします。

對馬委員 家庭科は東京書籍と開隆堂の2社ございました。どちらも写真が豊富で、非常に見ているだけでも楽しい教科書でした。東京書籍の方には、例えば玉止めのところ、成功例も失敗例もついていて、これも大変参考になると思いました。それから、両社とも今までのものに比べると、デジタルコンテンツも含め、左利きへの対応というのがすごく丁寧にできていて、これは本当にありがたい。

先ほど書写のところでも出たかと思いますが、うちの娘も1人左利きの子がいます。たまたま彼女は高学年で持ってきた図工の先生が左利きだったので、その授業だけは大変よく分かったけど、ほかは、先生がこうやるのだよと見せてくれても全然分からなくて非常に苦労したということも今でも言っています。デジタルコンテンツなどによって、先生が右利き・左利きにかかわらず、子どもにはとても参考になってありがたいなと感じました。

どちらもキャリアインタビューなども載っていて、将来のキャリア教育にもつながるところも多くございました。今の時代、デジタルコンテンツを私たち大人も日常的に使うことで、かなり料理とかを見る人は多いと思うのですね。お裁縫なども、私もそういうのを見たりすることもあるのですけれども、非常に多いと思う中で、家庭科の教科書はどういうのがいいのだろうと思いついていったのですが、例えば開隆堂さんの教科書だと、単元名のところに「なぜ針と糸で縫うのだろう」、「なぜ調理をするのだろう」、私も何で調理するのだろうと思ったりして、更には、「なぜ衣服を着るのだろう」というのがあって、そうか、そこから考えるのかと。この教科書は、こういったことを改めてちゃんと考えるように作られているのだなと。

最後の方に、開隆堂さんの教科書で「時間をどのように使っているだろう」と書いてあって、そこに生活時間をマネジメントしてこうと、時間をマネジメントするという言葉がちゃんと出てきています。6年生には、もしかしたら難しいかもしれませんが、やはりそれは大人になってからもとても大事なことで、自分で時間をマネジメントする。その先、例えば仕事をマネジメントする、いろいろな意味で優先順位をつけたり

するのはとても大事だと思うのですが、それがその言葉で出てきていました。非常にいいなと思います。

それから調理実習のところで、実は開隆堂の教科書の中に野菜や芋のゆで方というのが4つに分かれてあって、根菜と葉の野菜があって、水からゆでる、お湯からゆでる、その途中でもいいよというのが、図と表の合いの子みたいなのが出ているのですけれども、調理をする時にこれはとても大事だな、いい参考になるなと思いました。

そして開隆堂さん、最後に4ページを使って持続可能な社会のためにということで、しっかりとそれが書かれています。杉並の子どもたちにとって持続可能な社会というのは1つの大きな課題というか、考えてほしいことだと思いますので、私は、東京書籍さんの方も非常にいいのですけれども、やはり開隆堂さんの方がいいかなと思います。

久保田委員 私も東書の教科書、そして開隆堂の教科書、両方とも本当によくできているなと思いました。先ほど對馬委員がおっしゃったように、左利きの児童への対応というのもきちっとなされていますし、本当に素晴らしいと思います。手縫いとかミシンの使い方とか、調理の仕方とかも、どちらも大変分かりやすく、見やすく構成されていて、よくできていると思います。

私の中では本当に甲乙つけ難いということだったのですが、今の對馬委員の調理の仕方の細かい、最初からゆでる、途中から入れるどうこうとか、その辺を聞くと、私は分からない世界だったと恥ずかしながら今、話をしております。

ということで、開隆堂がいいのかなと思います。

伊井委員 今の調理のところは、緑のお芋のところなのですが、実は区民アンケートの方に緑のお芋の様子が写真で入っていて、子ども自身が「これ危ないかも」と気付いていいと思いました。ゆで卵のページにアレルギーへの記載があり、また給食で注意していることが示されていて、とてもいいな、学校に行くのにとっても安心できるなと思いましたという区民アンケートがありました。

私も開隆堂の方がいいなと思うのですが、2社とも、よりよい生活者となるための学びとして、素晴らしい教科書になっているなと思いました。教科書として、ただ調理法やミシンの使い方が掲載されているのではなく、目次を見ると、そのラインナップがすごく充実

しているのですね。

特に涼しい住まい方、暖かい住まい方の工夫、家庭の一員だけでなく地域の一員という單元もあり、注目される視点です。全体的に暮らしという視点に立っていて、総合的に、かつ、日々の暮らしの成り立ちや組み立てを示しながら、児童自らも考え、行動できる方向に導いているなと感じるのですが、その点では、やはり開隆堂かなと思います。

私がトピックとして良いと思った点ですけれども、生活を支えるものや、お金という單元で、消費者教育について丁寧にアプローチしている点です。昨今ゲームへの課金の問題などを耳にしますが、こうした消費者教育につきましては大切な学びだと考えます。また、地域との関わりについては、実践を提案している点などは、杉並区の教育につながるのではと思います。ということで、開隆堂がいいなと思いました。

教育長 ありがとうございます。皆さん、開隆堂ということですので、開隆堂でよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、家庭科につきましては開隆堂出版で決定といたします。

引き続き、保健に行きます。保健について、いかがでしょうか。お願いします。

久保田委員 保健は6社あります。東京書籍・大日本図書・大修館・文教社・光文書院、そして現行のGakkenであります。この中で、やはりGakkenと東書と大日本は現場で使っていくのにいいかなと思いました。理由は、3社とも学習の流れを明確にしている、それに基づいた構成になっているということなのですね。

保健の場合は、1時間の授業を3つのピースという言葉を使って、3つのピースで構成されていて、それで作り上げていく、そういった教科書のつくりになっているのですね。そして、また学習を進めながら教科書にノートとして記入していけるような欄も確保されていて、授業としてスムーズに展開していけるのかなと思いました。

また東書の場合は、1時間の授業を4つのステップで構成していました。これも見開き2ページの使い方も含めて非常に分かりやすい構成となっています。書き込みのノート欄も確保されていました。デジタルコンテンツも豊富で、やはり活用しやすい、そんなふうに思いました。

大日本の場合は、1時間の授業を基本的に見開き2ページで、要は1つの題材を見開き2ページでというのが基本なのですが、非常に分かりやすい内容構成になっています。また、ほかの会社もそうなのですが、大日本においても、ジェンダーフリーとかコロナなどの現代的な課題も丁寧に取り扱っているというのが特徴であり、よかったところです。

この3社でどれか、なかなか絞りにくいなと迷ったところなのですが、また委員の皆さんからもこれはというものがあつたら教えていただきたいと思いますし、特になければ、現行使われているGakkenの教科書でいいのかなと今のところは思っています。以上です。

折井委員 教科書調査委員会で質疑応答があつた内容になるのですけれども、保健の授業では、限られた時数しかないということもあつて、教科書に書き込みスペースがあつて、そこで完結できると方が授業が進めやすいのだというお話を聞きました。その観点から、先ほど大日本・Gakken・東書とありましたけれども、スペース的にもしっかり確保されているものはGakkenか東書、この2社、2択になるのかなと思います。

教育長 ほか、いかがですか。

伊井委員 私も、光文書院さんの3・4年の始まりのところに「どうして保健を学ぶのかな」という問いがあるのは、とてもいいなと思ひまして、5・6年でも、その問いかけと同じアニメの絵で、項目ごとに問いを設けていて、本編に入るというつくりになっていて、見通しを持ち理解につながると感じました。裏表紙に掲載されている各界で活躍している方々のメッセージも子どもたちには身近なのかなと感じました。

でも、Gakkenの教科書は全体に学びの流れがすっきりしていて、説明・写真・挿絵のバランスがほどよく、理解しやすい言葉が採用されていると感じました。2冊読んでみましたが、大人にとっても、とてもためになりました。小学校から体について、健康についてしっかり学ぶことで、児童にとって生涯教育ともなるなと思ひしております。今は情報社会なので、今後情報の中から、どれが正しくて、自分に必要なのか判断する力の基礎ともなるものだと思ひました。新型コロナについても追加され、人生100年時代を健康に生き抜く知識と知恵が満載な教科書だと思ひました。

調査委員会からは、先ほど折井委員の方からもありましたが、年間での時間が限られている中で、体育の大切さ・楽しさも踏まえて、児童には心の健康のためにも豊かなスポーツライフを目指してほしいとの思いも伺いました。児童が、これからもずっと心と体を大切にできるように願っています。というわけで、Gakkenで引き続き学んでいけたらいいなと思います。

教育長 ほか、よろしいですか。

對馬委員 Gakkenか東書かということで、どちらも先ほどから話題になっているように、3・4年生で年間4時間、5・6年生で8時間と伺っています。そうすると、確かにノートを買って使うよりも教科書に記入するほうが現実的でいいのかなと思いますと、Gakkenの方は自分の言葉での記述が求められる、そのスペースが広く取られているという印象がございますので、Gakkenでいいかなと私も思います。

教育長 私も、先生方からのお話を伺っていて、記入スペースという点でやはりGakkenが非常に使いやすいという話は伺っていますので、私もGakkenがいいかと思います。

ちょっと違う観点でお話をさせていただきたいことが一つあって、性の多様性についての記述が教科書会社によってかなり違うのですね。それで、今回見ていて、これはかなり、それぞれの会社が本当に苦勞して工夫したのだなというのをすごく感じました。というのは、学習指導要領には、「思春期になると異性への関心が芽生える」というのが書かれているのです。

ところが、様々な性の多様性を受けて、実は東京書籍は、「異性或好きな人と話したいけど恥ずかしい」という表現を取っているのですね。つまり、異性だけじゃない、好きな人と並列にしているのです。ここまで突っ込んだ表現にしているのは東京書籍だけなのです。

例えば光文書院は、「異性に話しかけるのが恥ずかしい」、これは異性だけなのです。光文書院は、編集方針で明確に性の多様性は取り扱わないと言っているのですね。なぜかというと、先生方がまだそこまで対応できない。ここまで教科書に書いてしまうと、先生たちは非常に指導が大変なのではないかというのが、光文書院が編集方針で挙げているのです。

残りの大日本、それからGakkenについては、異性も好きな人も書い

ていないのです。ただ話したいけど恥ずかしいとか、本当は仲よくしたいけど、いたずらをしてしまうとか、つまり、誰にという対象をあえて明記していないのが大日本・Gakkenなのですね。大修館は「気になる人」という表現をしています。でも、どこの会社にしても、発展学習のコラムというのですかね、として性については心の多様性、体と心の性が違うという、そういうことは触れています。

こうやって見た時に、もちろん東京書籍の突っ込んだ形での「異性や好きな人」というのも一つの考えだし、ただ、全体を見る時に、果たしてこれで教員が指導に対応できるかと考えた時に、私は、あえてそこは発展のプラスで書いてある教科書、つまり、私はGakkenでいいのかなと思います。

ただ、これについては、これから先、大きな問題になっていくことであり、当然ながら、これが「異性や好きな人」という並列な世界に多分なっていくだろうし、ただ、学習指導要領自体がまだ「異性」となっているので、ここは今後の改訂に期待するところなのかなと思います。

ですから、現状ということで考えると、私はGakkenがいいのではないかと考えています。ほか、意見いかがですか。よろしいですか。

それでは、保健につきましてはGakkenと決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、保健につきましてはGakkenと決定をいたします。

引き続きまして、英語に行きます。英語についてご意見のある方、お願いをいたします。

伊井委員 英語は6社ございます。東京書籍・開隆堂・三省堂・教育出版・光村図書・啓林館の6社です。前回センセーショナルだったのが東書の別冊の「My Picture Dictionary」。他社も大変そこに力を入れてきたという感じがいたします。

開隆堂は5年・6年が同じもので「Word Book」、それから三省堂「My Dictionary」、教育出版は本体巻末「My Word Bank」、光村図書は巻末で外れる形になっています、「Picture Dictionary」、啓林館は巻末に「Word List」つきになっています。

それぞれ工夫してきたと思いますが、内容はおおむね単語帳のイメージでした。その中で東京書籍の「My Picture Dictionary」は、

ページを開くと、「英語を使って会話を広げよう」と会話をしている小学生の写真があり、「日常生活で使える表現」、「会話を始めるとき」、「続けるとき」、「終わるとき」の表現があります。

また更にページをめくると世界地図があり、世界各国の情報が国の名前だけでなく、デジタルコンテンツによって音声でも聞くことができます。この音声で聞けるといえるのは、本当にうらやましいと感じました。次のページには日本地図、そこには日本の特産品・伝統文化・名所なども分かります。

実は書道家の知人がある学校で授業をしているのですが、子どもたちへ書道の心を伝えてくださるとともに、児童に対して、日本のことをしっかり勉強して、海外の人へ伝えられるようになりましょうと話してくださいました。とても大事な観点だと、その時感じました。

国際理解、異文化への理解、国際交流、最終的にはコミュニケーションできるということを目指していく時に、東京書籍の教科書の5年生始まりの「日本でつながる私たち」、6年生始まりの「世界につながる私たち」、ここに東京書籍の軸が集約されていると思います。世界と交流することへの東京書籍の主軸がこの「My Picture Dictionary」にも実現されていると思っています。

単語の紹介には、例題的な会話のセンテンスがついていますし、会話の表現が随所に見られます。二次元コードの内容も充実していますし、教科書の項目も含めまして、項目、あるいは単元として整理されているので、とても使うのが楽で、学びを自由に広げることができると感じました。この「My Picture Dictionary」の巻末には、5年生・6年生の「主な表現を確認しよう」という、教科書のユニットごとに学習した主な表現を紹介しています。

この各ユニットで学習した大切な表現を振り返ることで、個々に復習することもでき、また、そういった意味では個別最適な学びにつながると思いますし、会話という意味では、対話を大切にする杉並の教育にもつながっていくと思います。私は東京書籍がよいと考えております。

教育長 ほか、いかがでしょうか。

對馬委員 前回の採択の時に、確か英語の教科書が初めて出てきたかと思うのですがけれども、その時に比べると、どこの会社も非常に努力されたといえますか、前の時よりもどれも非常によくて、非常に似通っ

ているというのでしょうか、本当にどれもよくなっているなど思いました。ただ、やはり会社ごとに会話が多いとか、活動が多いとか、あるいは、英語という言語だけではなくて、世界の文化を学ぼうとしているところであったり、そういった特徴はいろいろあったと思います。

もう一つ、一番最初に教育長のお話にもあったように、デジタルコンテンツが今回いろいろな科目で出てきていますが、英語はやはり音声というのが非常に大事でして、デジタルコンテンツが充実しているなど思ったのは、東京書籍・教育出版・開隆堂、この3社かなと感じます。

デジタルコンテンツというのは、学校でもそうでしょうけれども、お家に帰ってから一人で勉強する時にも役に立つものかなと思います。教科書調査委員会の先生とお話した時にも、東京書籍であったり、開隆堂であったり、その辺りは先生としても使いやすい教科書にできていますよということも伺っておりますので、その辺りで決められたらいいのかなと思います。

久保田委員 私は東書と啓林館の教科書でいいなと思ったところがあります。それは、授業の中で学習を進めながら児童が教科書に記入していけるスペースが多く設けられているということです。やはり児童にとって、英語を学んでいく時に、いろいろな負担が出てくると思うのですが、教科書に書き込むということが一つの子どもたちの負担軽減と言うと、ちょっと言葉がおかしいかもしれませんが、非常に一つの有効的な活用方法かなと思ったからなのです。

やはり児童がノートとかワークシートに改めて記入するとか、そういった活動というのは、時間的にも能力的にもかなりの負担を強いることになります。そういったことを考えた時に、教科書をノートとして、そこに記入していくという方法はいいなと思ったわけですね。

それから、もう一つは、やはりよく言われているところの、聞く・話す、そして、読む・書くという4技能の順番というか、バランスとか、その辺を考えた時、その辺のバランス・構成を考えて作っている、うまいなと思ったのが東書の教科書だなと思いました。以上です。

教育長 私は、それぞれの教科書でいろいろ文例が使われているのですが、その文例がどのぐらいあるかなと見たら、東書と開隆堂の文例というのが非常によくて、多分単語数というのですかね、ワードの数

も多いのだろうなと思うのですが、非常に多くのものを取り扱われているなと感じているので、東書・開隆堂辺りかなと私は思っています。

あと、デジタルコンテンツについては、私はいろいろ見た中で、やはり東京書籍のデジタルコンテンツは秀でていて非常に思いましたね。すばらしいコンテンツがたくさんあって。ですから、トータルでいくと私も東京書籍かなと思っています。

折井委員 英語教育が専門で、教員研修にも関わっている関係で、すみません、長くなりますが、全社についてコメントをさせていただきたいと思います。

2020年度から外国語活動も教科化されて教科書を選ぶようになったのですが、教科化されても、やはり外国語が「活動」であることは変わりがない。中学校の学習の形態をそのまま下ろしてくるのではなくて、やはり小学校としての外国語の授業である。それが作りやすい教科書であることが重要だと考えます。

学習指導要領の「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるように指導する」ための教科書になるのですが、コミュニケーションが取れるようになるというのは、要は発信もできるようになるということで、発表活動・やり取り活動ができる、発話活動まで持っていくことのできる教科書が大事だということになるのですが、杉並区の場合は、専科の先生もいますし、あとJTEの先生にも関わってもらってはいますけれども、クラス担任の先生もかなりの数を担当するのですね。

その際に、クラス担任の先生でも使いやすい教科書であることが杉並区の場合には大事であるということになります。ですので、教科書は段階を踏んでアウトプットまで持っていってくれるということをしつかりと道筋を見せてくれている教科書ということで、前回東京書籍を採択いたしました。

改訂を経て、本当に各社似通ってきているなという感があります。外国語の学習の過程は、基本的にリスニングなどのインプット活動、それから始めて、そこで触れた言語を活用してアウトプットにつなげるというのが通常で、言語習得の過程から見ても最も理にかなっているということになります。なので、ほぼ全社リスニング活動から始めて、最終的

にアウトプット活動になっています。

唯一の例外が三省堂の「Crown Jr.」なのです。こちらは最初から話してみよう、紹介してみようとあって、各課の3ページ目以降に初めてリスニング活動ですとか基礎練習が入ってきます。こちらは恐らく専科、もしくは私立の学校であるならば使えるのかなと思いました。

つまり、「話してみよう」、「紹介してみよう」、スモールトークの位置づけで、まず、できなくてもいいから知っていることを用いて取りあえずやってみようよ。そこでできなかつたり、自分の持っている知識と話したいことのギャップを感じると、それを踏まえて調べものなどをして、2回目のスモールトークをすると、実は学習がぐっと進むと言われています。ここまでやる余裕がある学校、もしくは地域であれば、恐らく使い勝手がいいと思うのですけれども、やはりクラス担任を持つようになった場合に、この構成は少し使いづらいかなと思いました。

改めてアウトプットにつなげるための教科書の構成としてこうであってほしいという観点は、一つ目は発話につなげるための準備がスモールステップであるということ。二つ目が、久保田委員がお話しされましたように、書き込めると担任でも指導しやすい。プリントとかを作らなくても、そのまま使えるので使いやすい。三つ目が、参考にできるような文例がある程度あること。ずらっと並ぶということではなく、ある程度使えるものが教科書のどこかに載っているということ。四つ目が、活動数が多からず少なからず適量であるということです。

光村図書・教育出版・開隆堂・啓林館・東京書籍、この5社は、いずれもインプットからアウトプットへの流れがきれいに確立されていると感じました。

1社ずつ申し上げていきますと、光村図書「Here We Go!」は評価しやすい工夫が本当によかったかなと思います。リスニング活動もとても充実しています。書き込みスペースが杉並区の実態としては少し足りないかなという印象です。

教育出版「ONE WORLD」は、アウトプット活動がとても豊富でした。ちょっとやり切れないかもという感もあります。文例が、教科書に載っているのが少し少ないので、学級担任が教える時には何か別に用意するとか、そういったことが必要になるかなと思います。

開隆堂の「Junior Sunshine」ですけれども、私も教育長と同じよ

うに、この教科書にすごく好感を持ちました。文例もあって、あとブレインストーミングの箇所があるのですね。ここも、とても指導しやすい工夫ですので、とてもいいと思いました。文例、ブレストの場所があるということで、開隆堂はとてもいいと思いました。

啓林館「Blue Sky elementary」ですね。こちら書き込みスペースが豊富で、文例もあり使いやすい。そして、特徴としては、書くことを丁寧に扱っているなと感じました。小学校の先生方の研修をしていると、書くことの指導が、ローマ字の指導と同じとまでは行かなくても、少しそこにとどまっている印象がありますので、この教科書を使うと、書くということがすごくしっかりと指導できるかなと思いました。

ただ、「Review」というところで、Reviewというのは復習とか振り返りという意味なのですが、こちらは、どちらかというとパフォーマンス評価のような発話活動になっていて、内容も発展的でちょっと難しめだなと思いました。活動が豊富という良さもあるのですが、ちょっとやり切れないかなと思いました。

現行の東京書籍の「NEW HORIZON」なのですが、私もほかの委員と同じく、東書一択かなと思っています。よさは、スモールステップであること、文例の書き込みスペースが十分であると思いました。特によい点は、前回からの教科書での変更点だと思うのですが、プラスマークがつけました。時間があればやってくださいのところですね。

前回の教科書を先生方、担任の先生、専科の先生が使っていて、聞くところによると、少し量が多くて、不慣れな担任の先生だとやり切れないとか、全部やらなければというプレッシャーを感じるというコメントをよく聞いていましたので、このプラスマークがあることで、教科書を最初から最後までやらなくても、ここは発展だから、時間がなければやらない、もしくは、パフォーマンスのアウトプット活動をもっと充実させるからやらないといった選択がうまくできるのではないかなと思いました。

あと、もう一つはデジタルの部分なのですが、スモールトークは、授業の最初に先生が発言して、児童を巻き込んでスモールトークをどんどん進めて、オーラル・イントロダクションですね、それができるととてもいいのですが、その部分が先生方はとても苦手なのですが、今回教員の方のデジタルブックの方にモデルトークが入って

いるというところが、これはとてもとてもありがたいなと思いました。

ですので、東京書籍の「NEW HORIZON」は前回以上に指導者の使い勝手ですとか、指導運営上の視点からも極めて優れている教科書だと思いましたので、私は東書一択だと思います。

教育長 ありがとうございます。それでは、英語につきましては東京書籍と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、英語につきましては東京書籍と決定いたします。

引き続き、道徳科についてご意見のある方、お願いをいたします。

久保田委員 6年前、まさに特別の教科、道徳がスタートした時、当然初めての道徳の教科書もスタートしました。その時私たちも初めて道徳の教科書を、あの時はもっとたくさんあったのですが、全部拝読しました。その時思ったことがあります。この教科書でどんな授業を作っていくのかということなのですね。

学習指導要領では、はっきりと「考え、議論する道徳」という言葉を打ち出しました。それはずっと今に至っています。今も強調されています。ということは、1時間の道徳の授業というのは、教師の側が道徳的価値を一方向的に押しつける、あるいは、教え込む授業ではないということなのですね。やはり一つの題材、主題の下で、児童自身がいかに考え、そして互いの考えを交流し合って、まさに考え合っていく授業をどう作り上げていくか。そのために教科書をどう使うかということになると思っています。

そんな時に、細かい問いをたくさん用意して、あるいはワークシート等を用意して、型どおりに教師主導で進めていくといったことではなくて、やはり児童一人ひとりがしっかりと考え、それを基に交流し合っていく、話し合っていく、そういった授業を作り上げていくことが大事で、当然問いとなるのは絞っていくべきだ、と6年前も私は申し上げたことがありました。それは今も変わらないと思います。実際、今回6社の教科書を拝見して、問いの数を絞っていくという流れがはっきりしたなと思いました。

それから、もう1つ、ワークシート・ノート類についていえば、1社だけとなりました。ということは、考え、議論する道徳の授業づくりということがはっきりしたなと改めて今回思いました。そんな中で、やは

り東書の教科書は1年生から6年生まで全ての題材にわたって問いを2つに絞っている、徹底しています。その下で、子どもたちにしっかり考えさせ、それを基に子どもたちが考え合っていく、そういった授業を実現するという意図が明確です。ということで、今使っている東書の教科書で私はいいかなと思っています。

教育長 ほか、いかがでしょうか。

伊井委員 調査委員会からの報告がありました時に、実態として受け止めたことがあります。年間35時間の道徳の授業の中で、道徳が教科となってから、基本的に教科書を使用して授業をしているそうです。1時間で完結を目指しているため、導入としての教材の判読時間は、基本は5分、長くても7、8分。

教材は、基本的には児童が読むのではなくて、先生が読んだり、デジタルコンテンツを活用して、映像を見ながら音声で流すなどの方法を取っているそうです。その後、発問を考え、話し合い、振り返りを行うのは結構時間との戦いだという話もございました。

会社によっては教材の分量が多いところもあるなど感じました。それだと、振り返りまで行かなくて時間切れになってしまうということです。私も研究授業だけでなく、日頃の授業を見せていただく機会がありましたが、最後の振り返りは大忙しなことも多々ありました。そうになると、発問以降の流れがとても重要になってくると思います。

そういう意味で東京書籍の教科書が、4つの内容項目について教材が万遍なく入っていて、しかもバランスよく配列されている。「自分のこと」、「人との関わり」、「社会との関わり」、「命・自然・大いなるもの」、以上、この4つです。

杉並区の「いのちの教育月間」というのがありますが、教材の内容項目が、そこでの教育内容とも合っているのかなという印象も受けました。先生方は挿絵にも気を配っていらして、発問していく時に、登場人物の心の動きに迫る手段であるということで、挿絵の表情も重要視されているとのことでした。そういう意味でも東書は、ほどよいと感じています。

4つの内容項目を見開きに色分けしていて、項目名も優しい言葉で表現されているので、授業が進めやすいのではないかと思います。何より、内容が児童の日常にある風景、エピソードであって、中には児童にとって思い当たる心情ではと思われるものもあり、身近な教材として東書が

いいと思います。

それから、裏表紙の「保護者の皆様へ」というところで、「心のちから持ちをめぐして」というメッセージがとても感動的でした。表紙にもすてきな言葉があり、表紙を開くと各学年、とてもすてきなメッセージがあるので、私は東書がいいなと考えています。

1点、追加なのですがすけれども、読みが終わった後、教材の内容が分かった後ですが、その後発問を考える話合い、振り返りを行うのは時間の戦いとお伝えしましたが、私は、そうすると発問以降の流れがとても重要だと感じます。今後は発問の後の活動、児童がどう自分と向き合い、他者とコミュニケーションを図っていくか、そのやり方には、もっと自由な発想というかバリエーションがあってもいいのではないかなと感じることもあります。

例えば別のクラスとシャッフルして議論するとか、大人とやり取りするとか、無理な面もあると思いますが、大人とやり取りするという点では、実際教育ビジョンをみんなで理解し、共有する取組がありましたし、学校によっては学校運営協議会の方々と話すチャンスを設けているところもあります。考え、議論する道徳、答えが1つではない道徳、「教育ビジョン2022」そのものに通じるところがあります。「違いを受け入れる」そのものですし、また発問からの流れは、対話を大切にしているところも教育ビジョンにつながっていると思います。先生方の授業がだんだん軌道に乗り、定着してきている実感がある点からも東書が望ましいのではないかと思います。以上です。

折井委員 道徳の教科書は本当に感動するのですよね。前回の時も、毎回道徳の教科書は読み応えがあって、本当に考えさせられて、場合によっては泣いてしまうという、感情移入をしてしまうのですけど。小学生だった時の息子も、道徳の教科書だけは見本本を読むことがあったのですがすけれども、2人とも光村図書、いいなととても思っていたのですね。いまだに光村図書の文章は、とても私は好きなのです。

ただ、ほかの委員の話聞いても、やはり時間がこれは足りないよねと。読んだり、読んでもらったりするので授業が終わってしまうのでは、やはり道徳の授業としての本分がきちんと果たせないのかなというところを考えると、やはり少し文章量はコンパクトであるべきなのかなということと、先ほど意見が出ましたけれども、ノートに書き

込むとか、問いがたくさんあるというのは、やはり厳しいなということと、あと、少し気になったのは、教科書によってキーフレーズが、教科書にあらかじめ書かれているものがあるのですね。私は、これは望ましくないのではないかなと思います。

特別の教科の初回の採択の時でも議論になったのですけれども、やはり考えを押しつけない、自由な発想。一見したら、意見が偏りそうな題材でも、いやいや違うよ、僕はこう考える、私はこう考えるというところが出るのがとても大切なので、やはり考えを狭めない、自由な発想を妨げるようなものはないほうがいいのかなと思いました。その点でバランスがいいのは東京書籍かなと思いました。

對馬委員 今、折井委員から道德の教科書で感動するとおっしゃったので、私は前にも言ったかもしれませんが、道德の教科書はあまり納得できないというか、起承転結の結がないのですね。当たり前なのですが、国語は基本的に起承転結があるのですけれども、道德の場合には起承転まで行って、結は自分で自由に考えて行って、一生懸命考える。それをその後の生活に生かしていくということで、そこがやはり大きな違いだと思うのです。

今、折井委員もおっしゃいましたけど、その結というのは誘導しないで、それぞれが考えて、こうしたらいいのではないかな、こうだったらよかったのになど、その発想がいっぱい出てくるのがとても大事だと以前の採択の時に教えていただいたこともございましたので、そうすると、道徳的価値観を押しつけないような方向で発問も絞られている教科書というのでいくと、やはり東京書籍がいいかなと感じます。

教育長 ありがとうございます。私も読んで、この6社にそんなにすごく差があるとは私は思いませんでした。本当どこの会社も、それぞれ取り上げている題材というか文章は、すばらしいものが多くて、そこから教員がどう問いを構成し、価値に気付かせていくか、この辺りというのは会社の腕にもかかってくるなと思っています。

皆さん、東書の意見が多かったのですが、実はそれぞれ教科書で、たくさんの人物を取り上げていて、池江璃花子さんとか藤井聡太さんとか中村哲さんというのが非常に多くて、実は東書で取り上げている臼井二美男さんという方がいらっしゃるのですね。義肢装具士で、い

わゆる義足を作る方で、ちょうど前回の東京オリ・パラの時にも活躍をされた方で。実は、この方は区内在住で、令和3年に杉並区のスポーツ特別栄誉賞を受賞している方なのですね。

この臼井二美男さんを取り上げているのは東書だけで、まさにこれは杉並区の宝である、これを是非私は取り上げて、子どもたちにも理解してもらいたいと思っています。社会や公共のために役立つということ、一応価値はそうなっているのですが、人の生き方は、価値は一つでなく、幾つもの価値があって、もしかしたら教員が狙っている価値ではないものを子どもは気付くかもしれない。それは分かりません。

でも、一生懸命頑張っている人の生き方を学ぶというか、見る、知るということは、自分の人生に必ず返ってくるものがあると。だから、是非そういう人物を取り上げている部分は大事にしたいし、かつ、この方が杉並区在住で活躍していらっしゃる方で、多分今度パリがありますから、そこに向けても活躍されると思うのですが、そうした方を追っていくということ、私は東京書籍がいいのではないかなと思っています。

皆さんからご意見頂きましたけど、道徳は東京書籍と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、道徳科につきましては東京書籍と決定をいたします。

それでは、以上で全ての種目を終了いたしました。ここで再度種目ごとに確認をして、最終決定をしたいと思いますので、庶務課長、全ての種目について発行者名の読み上げをお願いいたします。

庶務課長 それでは、先ほど決定いただきました発行者名につきまして、種目別に改めて確認をさせていただきます。なお、発行者の敬称は省略をさせていただきます。

国語、光村図書出版。書写、光村図書出版。社会、東京書籍。地図、帝国書院。算数、教育出版。理科、大日本図書。生活、東京書籍。音楽、教育芸術社。図画工作、日本文教出版。家庭、開隆堂出版。保健、Gakken。英語、東京書籍。道徳、東京書籍。以上でございます。

教育長 ありがとうございます。それでは、採択いたします。

議案第73号につきましては、ただいま読み上げたとおり採択することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

それでは、異議がございませんので、議案第73号につきましては、そのように決定をいたします。

庶務課長 それでは、引き続きまして、日程第2、議案第74号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和6年度使用）の採択について」を上程いたします。済美教育センター所長から、ご説明を申し上げます。

済美教育センター所長 では、引き続き私から議案第74号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和6年度使用）の採択について」、ご説明いたします。

特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律などの関係法令に基づき、毎年採択を行っております。

また、特別支援教育の教科用図書の採択については、学校教育法の附則第9条の規定に基づいて行っておりますが、特別支援学校については学校教育法施行規則第131条第2項、特別支援学級については同第139条において一般図書を使用することができると規定されております。

小学校教科用図書の調査研究と同様、規則・要綱・手引に基づき、特別支援教育教科書調査委員会を設置するとともに、特別支援学校及び特別支援学級からの報告を参考に合計720点の図書について調査研究を行いました。

調査研究結果につきましては、7月26日に特別支援教育教科書調査委員から教育委員の皆様へ調査報告書とともに口頭でもご報告させていただきました。

提案理由ですが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それでは、ご審議の方をよろしく願いたします。

對馬委員 これに関しましては、例年のことではございますけれども、全てを一括で採択して、それぞれ現場で必要な子どもたちに必要な本を先生が吟味して、選んでいただいて、使っていただくということに

なっていると思います。

今年度新しくこの中に入れる本に関しましては、私たちも拝見いたしまして、適切だと思いますので、ご提案のとおり、一括採択でよろしいかと思います。

折井委員 私も一括採択に賛成いたします。報告会のところでも、同じ教科書を小学校と中学校でやらないだとか、2年続けて同じにならないとか、そういったところも配慮しながら選んでくださっているということですので、このまま採択でいいと思います。

教育長 それでは、議案の採決を行います。議案第74号につきましては、特別支援教育教科用図書採択候補一覧のとおり採択することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、異議がございませんので、議案第74号につきましては、そのように決定をいたします。

それでは、以上をもちまして本日予定されておりました日程は全て終了いたしました。庶務課長、何か連絡事項がございましたら、お願いします。

庶務課長 次回の教育委員会の日程でございますが、議会の関係から日程を変更させていただき、8月25日金曜日、午後2時からを予定しております。よろしく願いいたします。

教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。